

国語

〈出題傾向〉

〈現代文〉

一五〇〇～五〇〇〇字程度の文章が出題されており、二五〇〇字前後の比較的短めの文章が多い。二〇二一年度の出題文は全て評論文だった。出題文のテーマは、文学・科学に関するものが主で、美術・社会学に関するものなどもあり、一九九〇～二〇二〇年代に書かれた文章が使われている。出題文は論理的な読解力を求める内容だが、難解なものはない。

個々の設問内容に関して、漢字問題は例年必出で、書き取りだけでなく、読み取りが出題される場合もあり、いずれの日程においても、六問～九問ほど出題されている。ほとんどの日程では、語句の意味を問う問題も出題され、単語・熟語・慣用表現について問われている。特に難解な語句は問われていないが、誤用されやすい表現が問われることもあり、選択肢の中から正確な意味を選ぶ力が必要である。また、接続語・語句・脱落文を空欄に補充する問題など、本文の文脈、論理を精緻に読み取らせる問題が多く出題された。

さらに、傍線部の意味・内容を問う問題もほとんどの日程で出題されている。また、傍線部における筆者の心情や考えを問う問題や本文との内容合致を問う問題など、本文全体の正確な内容の把握が要求される問題も出題されている。こうした本文全体の把握が必要とされる問題は、設問同士が同内容の対比であったり、一つの設問で問われた筆者の主張が他の設問でさらに発展的に問われたりする場合があります。一つの設問の間違いが他の設問に波及して、得点を大きく落とす可能性があるため、注意したい。

また、二〇二一年度は、単語や語句の抜き出し問題の出題はなかった。文章で解答する記述問題は、二〇一九年度・二〇二〇年度に引き続き、二〇二一年度も出題がなかった。

その他、文学史の問題が二〇二一年度では三日程で出題されている。

〈古文〉

二〇一九年度は、中古の作品から二題、中世の作品から二題、近世の作品から二題の出題であった。二〇二〇年度は、鎌倉時代の紀行文『春の深山路』、平安時代後期の短編物語集『堤中納言物語』、鎌倉時代の軍記物語『平家物語』など、一日程を除いて一度は目にしたことがあるであろう作品から出題された。

二〇二一年度は、室町時代の仏教説話集『因縁抄』、鎌倉時代の琵琶の継承に関する歴史物語『文机談』、江戸時代の怪談集『百物語』、室町時代の物語集『御伽草子』の「磯崎」、江戸時代の俳人・栗田栲堂の俳文「月夜さうし」、平安時代の長編物語『源氏物語』から出題されており、一日程を除いてあまり目にしたことがないであろう作品からだった。

本文量については、二〇二〇年度はいずれの日程も七〇〇～一〇〇〇字程度であったが、二〇二一年度は、前期A方式・中期が七〇〇～八〇〇字程度、前期B方式・後期が一二〇〇～一三〇〇字程度であった。二〇二〇年度は一日程を除いて和歌を含む文章からの出題だったが、二〇二一年度は半分の日程（三日程）で和歌を含む文章から出題された。設問数は、二〇一九年度・二〇二〇年度と大きな違いはなく、七～十問であった。設問内容は、現代語訳、動作の主語、敬語の種類と敬意の方向、傍線部の内容説明、空欄補充、内容合致などの読解力を測定する設問を中心に、古語の意味、用言・助詞の文法的知識を問う設問もほとんどの日程で出題されている。また、文学史などの基本的な知識を問う設問も出題されている。

総じて、本文と設問のバランスのとれた出題内容であり、バラエティーに富んだ設問構成である。解答するにあたって、余裕がある試験時間とは言えないので、時間配分には十分注意したい。

〈学習対策〉

〈現代文〉

上記の傾向分析からうかがえるように、本文の部分的理解を確認する設問だけでなく、本文全体の骨子を把握させる問題も出題されるのが本試験の特徴である。出題形式の違いに惑わされず、大学側が受験生に求めている学力は、国語力の基盤である「語彙力」と、それを基にした「読解力」であることを押さえておこう。

まず、漢字問題の出題量が多く、必ず出題されるため、日々の学習の中で漢字の書き取り・読み取りの訓練を行う習慣をつけよう。さらに、漢字問題に取り組む中で意味のわからない語句に出会ったら、意味も調べて必ずその言葉を自分のものにする。そのために、常に手元に辞書を用意しておこう。漢字は単に「書ける・読める」だけでは不十分で、意味を把握して使いこなせるようにしておく必要がある。また、慣用表現についても、文章の中で、意味のわからないものに出会ったら、必ず辞書を引いて正しい意味を確認しておこう。このように、「調べて覚える」学習姿勢を意識的に確立することが大切である。こうして語彙力を身につけておくと、語句の空欄補充問題を解く力なども高まる。

次に、文章の「読解」では、本文中の論理関係を把握するために、接続語・指示語・構文などの文法事項を理解しておくことが基本となる。標準からやや易しめの問題集や過去問の文章を使い、接続語や指示語によって、文と文、あるいは段落と段落がどのような論理関係になっているか、論理関係を意識しながら読む練習をたくさん行おう。こうした学習により、文脈を把握する力がつく。また、問題を解く際、傍線部が本文のどの部分と関連しているのか、あるいは、選択肢のどの部分が本文のどこと関連しているのかなど、文章と文章の対応関係を常に意識するようにしよう。

〈古文〉

有名でない出典からも出題されることがあるため、古文を正確に読解する力が必要とされる。また、古語・文法の知識や古典常識などを一定の量インプットしておかないと、古文の読解は難しい。普段から、こうした知識について学習しておくことが求められる。

二〇一九年度・二〇二〇年度に引き続き、二〇二一年度も和歌に関する設問があった。その対策のため、和歌の読解に不可欠な縁語・枕詞・掛詞などの修辭を、しっかり理解しておこう。また、本文中に引用されている作品や和歌に関連する文学史の問題が出題されることもある。日頃から国語便覧などを手元に置いて、主要な作品や和歌については、概要を暗記しておくことが望ましい。

●正確な読解力養成のために

- ①古語の強化…動詞・形容詞などの用言を中心に、何度も反復して学習することが望ましい。特に注意が必要なのは、「現代と意味の異なる語」と「複数の意味を持つ語」の二種類である。現代と意味の異なる語については、辞書の意味を確実に暗記しておくことが必須である。複数の意味を持つ語が出題される場合は、文脈に適した意味を選んで答える力が求められることが多い。辞書の意味を丸暗記するのではなく、語の大意や由来を把握しておき、文脈に応じて判断できるようにしておこう。
- ②文法的知識の定着…助動詞や助詞の用法、意味・用法の識別などは必出なので、こうした問題で失点しないように、しっかり学習をしておきたい。そのために、問題数が少なめの問題集を繰り返し解くなどして、知識を定着させよう。

●記述対策もしておこう

記述式設問の出題は、二〇二一年度にはなかったが、過去には出題されていた。記述式設問が復活しても戸惑わないように、問題集や参考書で、記述式設問に慣れておこう。そのとき、模範解答の着眼点及び解答作成の手順を確認して、実際に解答を書いてみるのが大切である。

最後に、ふだん接する機会が少ないと思われる近世の文学作品も出題されているため、日頃からふれておくとういだろう。

入試概要

総合型選抜

公募型学校推薦選抜

英 公募型学校推薦選抜

数 公募型学校推薦選抜

学 公募型学校推薦選抜

物 公募型学校推薦選抜

化 公募型学校推薦選抜

国 公募型学校推薦選抜

一般選抜

一般選抜英語

一般選抜日本史

一般選抜世界史

一般選抜生物

一般選抜化学

一般選抜数学

一般選抜国語

音楽実技

入試概要
総合型選抜
公募型学校推薦選抜
英 公募型学校推薦選抜
英語 公募型学校推薦選抜
数 公募型学校推薦選抜
学 公募型学校推薦選抜
生 公募型学校推薦選抜
物 公募型学校推薦選抜
化 公募型学校推薦選抜
学 公募型学校推薦選抜
国 公募型学校推薦選抜
語 公募型学校推薦選抜
一般選抜
一般選抜英語
一般選抜日本史
一般選抜世界史
一般選抜生物
一般選抜化学
一般選抜数学
一般選抜国語
音楽実技

〈出題のねらい〉

全体を通じて

現代文は文学・科学・絵画・社会に関する論説文から出題しています。いずれも平易な文章で書かれており、丁寧に読解すれば解答することのできる問題です。文章を読んで文脈を正確に読解できるか、また基本的な漢字や語彙を身に付けているかを問う問題です。漢字や語彙を問う問題については、失点せずに確実に正解したいところです。読解力を問う問題は、選択肢を丁寧に検討し、本文と照合する必要があります。日ごろから様々な分野の論説文を読んで、どういう点を問題として書かれた文章なのか、どのように結論まで導かれているのかを、それぞれの文章のつながりや関係を意識しながら読む練習をするとよいでしょう。

古文は『源氏物語』以外はなじみの無い作品だったかもしれません。しかし設問は、古典文法を理解や基本語彙の意味、文脈の読解など、基礎的な学力を問うものです。どういう人物が登場しているのか、また登場人物たちはどういった関係にあるのか、どういう場面が展開されているのかを丁寧に読み取らないと解けない問題が多いので、整理しながら読むようにしてください。

前期A方式(1月29日)

現代文は吉屋信子の文学活動に関する論説文からの出題でした。問一の漢字問題は、選択肢も含め、同音異義語を書き分ける力が求められます。問四丙「否定せん」は、文語調の表現です。動詞「す」未然形＋意志助動詞「ん」なので、ア「否定しようということ」になります。問八は、合致しないものを選ぶ問題です。ア「……敢えて反旗を翻そうとした」の部分が、本文の「知らず知らず挑発的な存在になっていた」と食い違います。

古文は、江戸時代の『百物語』からの出題です。問六は、ねずみと猫、かえると蛇、淵と馬のそれぞれの関係が本文でどのように書かれているかを踏まえれば正答にたどり着けます。問五は、傍線部3の前の箇所、ニカ所「合点参らず」「合点ゆかず」という文章があり、特に「淵が馬にはまるとは合点ゆかず」がヒントになります。設問文に「歌の中から」とあるので、「淵が馬にやはまらん」の部分があてはまります。

前期B方式(1月30日)

現代文は必答問題一問、選択問題一問です。選択問題の中には、通常の読解問題とは別に、四字熟語の漢字問題、慣用句・ことわざの意味を問う問題が課されています。㊦は文学に、㊧は脳科学に関する文章です。㊦問五(解答番号16)は、直後の文章だけではなく、この段落の冒頭から丁寧に読めば、絶対的であったキリスト教の価値観を覆すものであることを意味しているという正答にたどり着けます。㊦IIの語意問題の「付和雷同」(解答番号47)「明鏡止水」(解答番号50)は誤りやすいものです。四字熟語は意味だけではなく、漢字まで正確に覚えるようにしましょう。㊦の古文は室町物語『磯崎』から出題しています。夫の連れ帰った新しい妻に、以前からの妻が嫉妬している場面である、ということを念頭に置きながら、どのように物語が進んでいるのかを考えて読めば、解答しやすい問題も多かったでしょう。問二(解答番号66)は、bから考えると解きやすいでしょう。主語が「人」ですから、自分の願望を表す「ばや」ではなく、他人に対する願望を示す語が入ること、また直前の「来たれ」が已然形なので、未然形に接続する「なむ」ではなく「かし」が入る、という順序で考えると正解にたどり着けます。問五(解答番号71)は、直後の和歌が、女性の心が「直ならば」、牝牛の角も定規だろう、つまり「直」ではないのだと詠んでいることが分かれば、「直」の反対の曲がっていることを表す言葉、①「ゆがめる」が入ると判明します。

中期(2月16日)

現代文は絵画に関する論説文、古文は江戸時代の俳人による随筆文からの出題です。問四乙(解答番号16)は、「穿った」の語意を問う問題です。「穿った」を選択肢②の「殊更に疑ってかかるような見方をすること」の意で用いるのは誤用です。問八(解答番号20)は正答率が低かったのですが、⑤『あめりか物語』という作品名を知らずとも、他の選択肢はそれぞれ別の作家の著名な作品ですから、消去法で解きたい問題です。

古文は江戸時代の俳人による随筆「月夜さうし」で、なじみの無い作者・作品だったでしょう。しかし、文章は平易で、内容も秋の月の美しさを風雅に賞美するというものです。月の美しさを楽しむとという主題から文章を読んでいけば、基本的な古語の知識と合わせて正答に辿り着ける問題が多いです。問五(解答番号28)は、「心憎し」の語意と、「少しばかり見残し」が完全に満足するまでは見ないことを意味していると理解できれば、正答にたどり着けます。

後期(3月8日)

現代文は社会学の論説文を、古文は『源氏物語』から出題しました。現代文は平易な文章ではありますが、カタカナの専門用語が多用される文章なので、戸惑ったかもしれません。しかし注に示された内容を理解した上で落ち着いて読めば、決して難しい文章ではありません。問六(解答番号20)は、【iii】と迷いやすいのですが、【iii】は直前に「反対意見の人の……」に同内容の文章があり重複することになるので不適。

古文は『源氏物語』からの出題ですが、光源氏・朝顔の姫君・女五の宮・桐壺院・桃園の宮といった登場人物が、それぞれ別の呼称で登場するため、どの語が誰を指すのか、また人物関係を整理して読む必要があったため、全体的に難しかったかもしれません。しかし、問一の語彙問題や問二の文法問題は、基本的な事項を問う問題ですので、確実に正答したいところです。問一f(解答番号29)は正答率の低かった問題ですが、「あやしき御推し量りになむ」が、三行前の女五の宮の言葉「さりとも劣りたまへらむとこと推し量りはべれ」に対するものであること、女五の宮が「冷泉帝は光源氏より劣っていらっしやるだろう」と発言していることを踏まえれば、④が正答であるとたどり着けます。問三iv(解答番号34)は、主語が「この宮」である尊敬表現なので、「この宮」が誰を指すのかを考える必要があります。発話者は女五の宮であり、「宮」と呼ばれるのは⑤⑥のいずれかとなるが、この邸宅が⑤故式部卿宮(桃園の宮)の所有であったことが冒頭に示されているので、⑤であると分かります。

入試概要
総合型選抜
公募型学校推薦選抜
英語
数
学
生
物
化
学
国
語
一般選抜
一般選抜英語
一般選抜日本史
一般選抜世界史
一般選抜生物
一般選抜化学
一般選抜数学
一般選抜国語
音楽実技

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

現代の読者の手に、吉屋信子(一八九六一一九七三)をとりもつためには、文芸上の既成観念のいくつから、読者自身が解き放たれる必要がある。

吉屋信子は、一九一〇年代、明治末から大正初期にかけて、続々と創刊された少女雑誌の「花物語」(初出「少女画報」一九一六)の連載によって少女小説ジャンルの確立者となった。

その中心的な読者層として想定されたのは、高等女学校の女学生たちである。日露戦争後、新中間層とよばれるサラリーマン・カントリー、教員等の配属として専業主婦層が浮上するが、高等女学校の女学生たちは、いわばその準備軍に当たっていた。産業化される社会のなかで経済的に自立する術を訓練されているわけではなく、男は外に女は内にという性別分業の規範性、女学生たちは学ぶのだ。稼ぎ手をサポートし、次世代の稼ぎ手を再生産し、消費を切り詰め、手に入れた商品を家族により良く供するために手を加えることなどを、教えられたりもした。

女学生たちは同世代の異性たちから隔てられていたし、配偶者を選ぶ自由が保証されているわけではなかった。心をうちあけることのできる、感性をもとにするこの時代の友は、同性にかざられ、その友とのオウライも結婚によって制限されることは多かった。彼女たちのいとなみは、たはだかかる現実のまに閉ざされてみえるだけに、むしろその内圧は高く、たとえ少女雑誌を媒体として展開する幻想のネットワークは境遇を同じくする仲間をもとめて広範なものになった。

吉屋信子の少女小説は、華やきのかけにあって少女たちを少女たらしめているさまざまな不安、悲しみ、あきらめといった情緒までもよくいあける獨特の文体によって、読者の心をしかととらえた。異性愛の性役割とセクシュアリティとにたいする強し、異和の意識が、そのテキストに、おそらく作家自身にも自覚されずいたであろう批評性と可能性とを、与えていた。作家の自覚のおよばない領域を、読みとつてみられる読者たちがいた。少女小説とは誰にむけて、何を、いかに書くべきか、吉屋信子と読者たちは、いわばその手本が形成される現場に立ち会っていたのである。

少女小説界のアイドルにして少女文化の「いい」者となった吉屋信子を、少女雑誌の編集者は容易に手放そうとはしなかった。が、それでも一九二〇年代には、新聞や婦人雑誌を舞台に、家庭小説を執筆する機会に恵まれ、このジャンルにおいても吉屋信子は「一家をなす」ことになる。同時代の風俗に取材した家庭小説「徳川の夫人たち」に代表される歴史小説で、吉屋信子は振幅の大きい長篇物語を紡ぎだしてみせた。

いっぽうサンパツのころみられた短篇群では、幻想味の勝った作品が印象深い。吉屋自身の女子学生時代の愛読書は泉鏡花と伝えられるが、一九二〇年代モダニズムの試みを経過した吉屋の幻想小説は、時にモダン怪談ふうの洒落なものにもなり、時には社会性寓意性をおびて戦後文芸と斬り結ぶカヒンを残している。

これらにさらに、句作から俳句まで、俳句の領域の仕事が加わる。戦時下に久米正雄の句会に参加し、一九四四(昭和一九)年には、高浜虚子に注した。敗戦後、占領下にあつては、たとえば占領軍の機関資料として提出された雑誌データを取りめるランゲ文庫の目次データによるなら、一九四五年二月から一九四九年一月まで、吉屋信子執筆の記事は五三件、(中略)各種の俳誌への寄稿はすくなくとも一八件にのぼる。雑誌の有名無名、大小を問わず、敗戦後の出版ブームで多忙をきわめるなか地方誌にもつきあつて、吉屋にとっては俳句ジャンルとのかかわりが、ろなものではないことがうかがわれる。

このように駆け足で吉屋信子の仕事を概観してみると、それが、歴史性と政治性によってことさら狭く偏つたものにされた既成の近代文学の枠組みを、ややははしたところで展開されたことに気づく。吉屋の仕事は、小説ジャンル中心の文芸観なり、成人の男性の書き手が同じく成人の男性の読み手を想定して書くという暗黙の前提なり、さらには、テキストに描かれるエロティシズムを異性愛に特化するヘテロセクシズムなりといった、文芸的慣行のひとつひとつに異和をもたらす。異界・異類・死といった要素との交渉による現実の揺らぎと幻想の生成といった、短篇小説の試みも、そこに教えられることができる。

吉屋自身が「大人の小説」「純文学」と呼んだ文芸の規範にも、エンターテインメントにもおさまらないうところが、吉屋

信子の仕事にはある。生前の吉屋信子は、しばしば批評家からにされることを嘆き、小林秀雄が彼女の作品に嫌悪をあらわにしたことに憤慨し傷つきもしたが、それはほんめんでは、吉屋信子の仕事や理論武装の結果でなしに知らず知らず挑発的存在になつていったという証でもあろう。職業的な批評家にとってはあつかいにくい、いらだたしい対象といえるかもしれない。読者自身が既成の文芸観から解き放たれたらなければ、小説の冒頭に記したのはさういう意味でもある。(中略)

戦時下から占領期にかけてのむつかしい時代に、吉屋信子は、はと手すさびと片づけられない熱意をもつて俳句ジャンルにかかわつた。この時代、俳句界にたいしては、桑原武夫「第二芸術——現代俳句について」(初出「世界」一九四六年一月)といったジャンルそのものを否定せんばかりの批判がつけつけられてもいた。

しかしながら、吉屋信子が掘りおこした俳人はいずれも、家元俳句、宗匠制度、結社の類縁とは相容れない、強烈な個性の持ち主である。姉妹も幼なじみも身売ししなければ暮らしが立たぬような境遇に生まれ育ち、スラム街で病魔と闘い、俳句を心の杖とした富田木歩「せきをしてもひとり」「大いものがない両手で受ける」「淋しいぞ一人五本のゆびを聞いて見る」といった、みまがいようもなく彼のものではない孤絶の句を詠んだ、尾崎放哉。永井荷風とわたりあつた岡崎えん女。彼らにとって俳句の様式は、なまぬるの習俗などではなかつた。様式の内側から、様式を破ることで、破壊型の魂が鍛えられるということもある。あえてそのような俳人たちを選び、その生の軌跡とむかひあうことで、吉屋信子もまた鍛えられたといへよう。(川崎賢子「成熟した読者のための吉屋信子」による)

注1 高等女学校明治時代以降存在していた、女子を対象とした中等教育機関。第二次世界大戦後に廃止された。
注2 日露戦争。一九〇四—一九〇五年にかけて行われた、大日本帝国とロシア帝国との戦争。

注3 セクシュアリティと欲望に関わる人間の活動。
注4 モダニズム。近代主義・現代主義。十九世紀末から二十世紀前半にかけて展開された、伝統主義からの脱却を目指す、表現方法を刷新しようとする、芸術の諸分野における運動。
注5 占領下。日本が第二次世界大戦での敗戦(一九四五年)後、サンフランシスコ講和条約発効(一九五二年)までの約七年間、連合国軍最高司令官総司令部の支配下に置かれていた時代。
注6 ヘテロセクシズム。同性愛者に対する差別や偏見。
注7 第二芸術。フランス文学者の桑原が、俳句を前近代的なものとして批判し、小説や戯曲よりも下に置くべきものという意味を込めてこのように呼んだ。
注8 家元俳句。俳句結社の頂点に位置する家元(宗匠)が、伝統的約束事などを重んじて同人を指導する制度の中で作られる俳句のこと。

問一 線部A～Fの漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- A トウロウ
ア 現状を下ウカン視する。
イ 新規事業にトウシする。
ウ トウサクの快楽にふける。
エ トウイ即妙の返答をする。
オ 試合でのケントウを祝す。
B カンリ
ア カンゲンにのせられる。
イ カンゲンにのせられる。
ウ カンゴン葬祭。
エ カンセイ葉書を買う。
オ 諸事情をカンアンする。

- C オウライ
ア 大オウジョウを逃げる。
イ オウフウの建築。
ウ オウセツにいとまがない。
エ 一國のオウイを継承する。
オ 証拠物件をオウシユウする。
D サンパツ
ア 大企業のカンカに入る。
イ ヒサンな結末を迎える。
ウ サンゴウ資料を配る。
エ シンサンをなめる。
オ サンピンと韻文の違い。

- E カヒン
ア カダイな評価を受ける。
イ 必要以上にフガをかける。
ウ カキユウの事態が発生する。
エ ありえないことをカソウする。
オ 物語がカキヨウに入る。
F シジ
ア シリ減衰な言動。
イ 芸術シヨウ主義。
ウ センキョウシの布教。
エ 眼光ノハイに徹す。
オ 侵略をヨクシする。

問二 線部i・iiの漢字の読み方として最も適当なものを、それぞれ次のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- i 検閲(ア)けんらん イけんざつ ウけんらい エけんえつ オけんぶん
ii 時世(ア)じせつ イときよ ウじせ エときせ オじせい

問三 線部A～Cに入る最も適当な言葉を、それぞれ次のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- A 創始
イ 追隨
ウ 供進
エ 異端
B 逸脱
イ 模倣
ウ 批正
オ 徹底
C 束縛
イ 論評
ウ 相殺
エ 虚飾
オ 余技

- 甲 「家をなす」
ア 家を建てるまでに成功すること。
イ 大きな発言権を得ること。
ウ 強い主張で相手を制圧すること。
エ 多大な収入を得ること。
オ その領域で大成すること。

- 乙 「洒脱」
ア 凝った趣向があること。
イ 滑稽味があること。
ウ 俗気のないこと。
エ お洒落で浮麗なこと。
オ 現代的であること。
丙 「否定せん」
ア 否定しようということ。
イ 否定するまでもないということ。
ウ 否定できるということ。
エ 否定しきれないということ。
オ 否定するまいということ。

問五 線部I「少女たちを少女たらしめているさまざまな不安、悲しみ、あきらめといった情緒」とありますが、この「情緒」に合致するものとして最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 少女たちが、少女として存在するからには、それらの感情から逃れられないと諦めるしかない。
イ 少女たちは、少女らしくある、ということ意識しすぎるあまり、それらの負の感情に陥る。
ウ 少女たちは、少女らしくいさせるためには、彼女たちにそれらの情緒を忌避させてはならない。
エ 少女たちは、それらの情緒に浸ることのできることを、少女の特権であると自負している。
オ 少女たちが、それらの感情を抱えていることが、少女というものの本質であるといえる。

問六 線部II「様式の内側から、様式を破ることによって、破滅型の魂が散えられる」とありますが、その内容を表した例として最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- A もともと小説家であった吉屋信子が、同じ文学の分野である俳句の領域に目を向け、新たに個性的な俳人たちを発掘したことで、彼女の小説家としての感性がより鋭えられることになり、さらなる飛躍が可能になった。
イ 吉屋信子が注目した俳人たちは、伝統的な様式を持つ俳句という領域に敢えて取り組みながら、従来の様式に固執しない表現を模索することで、破滅を志向する本性がより研ぎ澄まされ、彼ら独自の個性的な表現が可能になった。
ウ 小説家であった吉屋信子が、同じ文学の分野である俳句に対して向けられていた同時代の批判を検討したことで、かえって俳句の新たな魅力に目覚めることになり、破滅的に生きる個性的な俳人たちの発掘に成功することになった。
エ フランス文学者である桑原武夫が、同じ文学の分野である俳句を否定したことによって、吉屋信子が注目したような強烈な個性を持つ人々は、俳人でありながら伝統的な様式の破壊に向かうようになっていった。
オ 吉屋信子が注目した俳人たちは、そのあまりに孤独で個性的な性格ゆえに、伝統的な様式を破壊したいという欲求を抑えきれず、その実現が可能になるように、とすれば破滅に向かっていたが、個性を、より鋭くあげていった。

問七 線部「幻想のネットワーク」とありますが、少女たちが形成したそのネットワークの性格として適当ではないものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 小説の読者による、小説への共感を通しての繋がりがあり、日々実際に顔を合わせて交遊できるわけではない。
イ 現実の交友関係に制限がある少女たちが、せめて雑誌を媒介に、同様の感覚を持つ友人の輪を広げようとした。
ウ 厳しい現実の中で、人との繋がりが閉ざされている少女たちが、雑誌が提供する共同体を受動的に受け入れた。
エ 現実の生計不安・不満が多いからこそ、雑誌上で共感し合える存在を強く求める少女たちの欲求が背景にある。
オ 少女たちが、作者が自覚していないことまでも小説から読み取り、内容を増幅させ、それを共有しようとした。

入試概要
総合型選抜
公募型学校推薦選抜
英 公募型学校推薦選抜
語 公募型学校推薦選抜
数 公募型学校推薦選抜
学 公募型学校推薦選抜
生 公募型学校推薦選抜
物 公募型学校推薦選抜
化 公募型学校推薦選抜
学 公募型学校推薦選抜
国 公募型学校推薦選抜
語 公募型学校推薦選抜
一般選抜
一般選抜英語
一般選抜日本史
一般選抜世界史
一般選抜生物
一般選抜化学
一般選抜数学
一般選抜国語
音楽実技

問八 問題文全体の内容と合致しないものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 男性中心主義・異性愛中心主義等の文学的慣習の数々に敢えて反旗を翻そうとした吉屋信子の文学活動は、読者自身が文学をめぐる既成概念に縛られていたのでは、理解するのが難しい。
 イ 吉屋信子の多岐に亘る文学活動の全貌を理解するためには、文学の中で、小説というジャンルをその最高位に位置づけるような文芸観に囚われていたのでは、難しい面があると言える。
 ウ 現実世界における常識に対して、作者自身が意識せずに違和感を提示するような吉屋信子の描く短篇小説には、現実を絶対的なものとして捉えない幻想色が、加味されることもあった。

エ 吉屋信子の作品によって突きつけられる、文学が暗黙の前提としてきたことへの疑問は、彼女が意図して計画的に書いたわけではないからこそ論じにくく、そこに背立ちを感じる批評家もいたかもしれない。
 オ 吉屋信子の作品に、期せずして盛り込まれている既成概念への違和感は、伝統的な制度の内側で安穩としていられたかった、吉屋が発露した俳人たちの感性と、相通するものがあると言える。

問九 問題文中に出てくる高浜虚子が主宰を務め、発展させた雑誌名を、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア アララギ イ 新思潮 ウ 帝国文学 エ 文芸戦線 オ ホトトギス

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

さる人の語りしは、古ねずみ敷の中にかがみぬてなげきけるは、世の中に生をうくるものおほき中に、われらほどかなしきものはあらず。まづ猫のくひものにそなはり、また人に見つけられてはころされ、一生こそまきにけまはりて、しづかなるまもなし。あらものつとて申しければ、かへる聞きて、御なげきはもつともなるが、われらもかはらぬ身なり。この身は蛇のえじきにそなはり、草なかき所にすめば、人にふみころされ、草なかき所に出れば、水にかつて、一生かきまきとて、二ひきともになみだをながし、いざやこの身の前生を聞きて後世をいのらんとはいへば、もつとも同じければ、ねずみ語りけるは、さる寺にて因果経を聞きしが、ねずみの前生は a なり。ねずみを取るとのみ思ふゆゑ、ねずみと生まれて、^{注1}にくはると聞きしほどに、そなたも前生 b にてかへるをのまむのまむの一念にて今またかへるじ生まれて c にはまるといへること、なにとも合点参らずといふと、ねずみしはらく時してみれども、淵が馬にはまるとは合点ゆかず。かやうなることは世をのがれつづかに暮らして案ぜは古参るべし。いざやとかく世をいと申さむと、ねずみは一間真中の板屋を立てて、世をのがれしが、悪念ふかきものなれば、ひと月こらへず俗になりしゆゑ、今にはつかねずみとて人なほ憎むなり。かへるは道心ふかく委わらしべにて家をつくり、あまになりて一生を過せりとなり。いまに子ともまでも「あまがへる」とはいつ死に給ひた」などいひてとぶらはれると語りし。

〔百物語〕による

注1 因果経 ①「仏説善悪因果経」の略称。
 注2 一間真中 ②畳半の広さのこと。
 注3 「あまがへる」とはいつ死に給ひた ③子どもの遊びで、あまがへるの葬式として、妻わらで作った籠にかえるを入れたて唱えた言葉。

問一 〳〵線部「あらものうや」を曲調分解したのとして最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア あらものうや
 イ あらものうや
 ウ あらものうや
 エ あらものうや
 オ あらものうや

問二 〳〵線部①「にけまはりて」、②「いへば」、③「いへば」、④「語りし」について、それぞれの主語は誰ですか。最も適当なものを、それぞれ次のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい(同じ記号を何度選んでもかまいません)。

- ア かへる イ 蛇 ウ さる人 エ 猫 オ ねずみ

問三 〳〵線部1「かへるはきこゆる歌よみなれば」について次の各問いに答えなさい。

- I 「きこゆる」の意味として最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。
 ア 名高い イ 耳のよい ウ 声の大きな エ 悪名高い オ 聞いたことのある
- II この部分は、次に記す「古今和歌集」『仮名序』の冒頭部分に拠っています。
 やまと歌は、人の心を種として、よろづの言の葉とぞなれりける。世の中にある人、ことわざげきものなれば、心に思ふことを、見るもの聞くものにつけて言ひ出だせるなり。花に鳴く鶯、水に住む蛙の声を聞けば、生きとし生けるもの、いづれか歌をよまざりける。
- i 右の「古今和歌集」『仮名序』における…線部1「蛙」の読みを歴史的仮名遣いで記しなさい。
 ii 右の…線部2「いづれか歌をよまざりける」の意味として最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。
 ア 鶯と蛙だけが歌を詠じる。
 イ 誰もかみな歌を理解する。
 ウ 歌を詠じないのは誰と誰か。
 エ 誰もかみな歌を詠じる。
 オ 歌を理解しないのは誰かか。
- iii 「古今和歌集」と成立年代の最も近い文学作品として最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。
 ア 枕草子 イ 土佐日記 ウ 源氏物語 エ 古事記 オ 蜻蛉日記

問四 線部2「馬が淵にはまるはことわりなり」の意味として最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 馬が淵で夢中になって水を飲むことはお断りだ。

イ 馬が淵に転落することは予見されていたことだ。

ウ 馬が淵のところでだまされることももつともなことだ。

エ 馬が淵に落ちて溺れてしまうことはあり得ることだ。

オ 馬が淵にはまって足を取られることはあつてはならない。

ア 馬 イ 蛇 ウ かへる エ 猫 オ 人 カ ねずみ

問六 a e 号で答えなさい(同じ記号を何度選んでもかまいません)。

ア 馬 イ 蛇 ウ かへる エ 猫 オ 人 カ ねずみ

問七 線部甲「はつかねずみ」、乙「あまがへる」について、なぜそのように呼ばれるようになったと問題文では言われていますか。その理由として最も適当なものを、それぞれ次のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

甲 「はつかねずみ」

ア 出家してわずか二十日で俗世に生きる身に戻ったため。

イ 二十日間思案しても不審が一向に解けなかったため。

ウ 二十日間ですます悪念が起るようになったため。

エ 二十日の後にまたねずみに生まれ変わったため。

オ 一月足らず迷いの淵に落ち込み人に憎まれ続けたため。

乙 「あまがへる」

ア わらしべのかえるの家が雨漏りしたため。

イ かえるが天に帰ることができたため。

ウ 出家して尼となり成仏したため。

エ 出家したかえるが俗世に戻ってきたため。

オ 雨水に打たれるとかえるは生き返るため。

(国語問題 おわり)

必答問題

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

B 国 語

俳句は、もともと俳諧といった。「諧」は、諧謔の「諧」だ。何人かで、五・七・五・七と句をつけあう連歌のなかから、ことが遊びを楽しむゲームとして発展したもので、滑稽なことが基本なのだ。芭蕉は、俳諧を高級な遊びにしたが、滑稽の精神も捨てなかった。

「古池やかはつ飛び込む水の音」もそうだった。蛙を和歌では「かはづ」という。鶴は「たず」。これらをカゴという。和歌の約束のひとつだ。そして、「かはづ」は、和歌ではもっぱら鳴き声をうたうものだった。ところが、芭蕉は、鳴き声ではなく、蛙が飛びこんだ水音にした。この句にも、和歌の約束を破って、「あつ」といわせる滑稽味がある。それだけではなく、小さな水音が、音むした庭の静けさを、届きわたるカンジヤクの味もあわせもつ句にした。

この句には、春の庭にたくさんの蛙が飛びまわっている光景だという解釈が早くからだされていた。だが、そんな解釈だつてできるよ」と常識をひっくりかえす俳諧の精神による遊びではないだろうか。

さまざまな解釈を勉強すればするほど、翻訳者は迷う。ア、「日本語は、あまいだ」といいたくもなる。そんな苦勞を重ねているうちに、逆に、日本の文芸は、日本語のあまいさ、多義性を積極的に利用していると考えられるようになった、というわけだ。もうひとつ、ことは多義性からさまざまな象徴技法を論じた二〇世紀の評論がヒントになったようだ。

アフリカでは長いあいだ、自分たちの部族の守り神、トーテムとして動物をまつてきた。その動物をその部族のシンボルにして、集落の門などに立てる。キリスト教は十字架をシンボルにした。中世ヨーロッパでは、たとえばバラの花は、愛の象徴だった。抽象的な観念を物に置きかえて示すやり方だ。このようなシンボルを、近代ヨーロッパでは原始的な技法と見なし、てきた。イ、その価値観を一九世紀後期にはじまる象徴主義の芸術運動はくつがえした。ここからさまざまなセンエ

イ芸術が花びらいた。象徴についての理論も盛んになった。象徴は、もとは中国語にはなかつた語で、シンボル (Symbol) の訳語としてつくられたものだ。たとえば「鶴は千年、亀は万年」は、鶴や亀が本当に千年も万年も生きなくとも、鶴に千年、亀に万年生きるという意味を託して、長寿のシンボルとしてきた。ヨーロッパのシンボルとちがいは、何かの全体をひとつに代表させる働きが弱いことだ。大切なのは、シンボルも、社会的な約束として成りたつ記号のひとつということだ。それが何のシンボルか知っている人びとのあいだでだけ了解される。約束を知らない人にも、十字架をみんなが拝み、なぜ、棘のあるバラが愛を表すのか、どうして鶴の銅像が庭に置かれたか、亀の置物が床の間に飾られたりするのかが、理解できない。信仰や宗教が、それぞれシンボルとする言葉のしくみ(体系)をつくっているのである。

象徴主義の芸術は、そのような原始宗教的なシンボルを現代によみがえらせ、神秘的な雰囲気を出すことを導いた。その根には、キリスト教が邪教やイタリとして排除してきたさまざまな信仰を、芸術によって復活させる意図が潜んでいた。フランス象徴詩の巨匠スタファン・マラルメは、一八九四年、ロンドンでの講演で、「詩が民衆の上に君臨する日」を夢見ると述べ、それを一種のカルト、宗教にたとえた。天に書かれた高語を地上に引きおろす、ともいっている。詩による世界の精神革命を企てたのだ。

イギリスでは、それより一世紀ほど前に、詩人で銅版画家のウィリアム・ブレイクが産業革命に哲を向け、独自の神秘の世界をうたいあげていた。その詩を、二〇世紀への転換期にアイルランド出身の詩人たちが発掘して再評価した。フランスでも、ネルヴァルという詩人が、狂人の世界にカタクして、古代エジプトの信仰をよみがえらせるような詩を書いたことを再評価する動きが生まれた。よく知られるメーテルランクの「青い鳥」(一九〇五)など、神秘的な雰囲気をもつ童話劇(メルヘン)が国際的に高い評価を受けた。そのような動きが盛んになり、ヒンドゥー教の教えを高らかにうたうインドの詩人タゴールが、アジア人ではじめてノーベル文学賞を受賞した(一九一三)。そして、アフリカの宗教儀礼に用いられる飾りをゼン・エイ美術にもちこむなど、さまざまな近代の価値観をひっくりかえす実験がこれに続いた。

入試概要
総合型選抜
公募型学校推薦選抜
英 公募型学校推薦選抜
語 公募型学校推薦選抜
数 公募型学校推薦選抜
学 公募型学校推薦選抜
生 公募型学校推薦選抜
物 公募型学校推薦選抜
化 公募型学校推薦選抜
学 公募型学校推薦選抜
国 公募型学校推薦選抜
語 公募型学校推薦選抜
一般選抜
一般選抜英語
一般選抜日本史
一般選抜世界史
一般選抜生物
一般選抜化学
一般選抜数学
一般選抜国語
音楽実技

この動きを受けとった日本では、**ウ**、それまで禪宗の教えを説いたものといわれてきた芭蕉の俳諧を象徴芸術として再評価する動きが起った。「山路来てなにやらゆかしすみれ草」という句が、宇宙の生命が「輪の野草に花ひらくこと」をやさしいことばで説いた象徴詩だと説明され、芭蕉が象徴詩人たちの尊敬を集めるようになっていった。その動きから、**エ**、「万葉集」で感動を表す「あはれ」も、「新古今和歌集」の禪宗にもとづく「寂しさ」も、また能楽の「幽玄」も象徴だ、象徴の美が日本文化の精髓だといわれるようになっていった。

〔中略〕外国人の研究者は、この動きを日本語の「ふつうの文章がもっているあいまいさ」によって説明しようとした。だが、日本語で主語が表面に現れないことや、単数、複数を区別しないことなどは、日本人にとっては、少しも「あいまい」なことではない。〔中略〕「わび」や「さび」は、中世の禪宗がもたらした「カンジャク」をよじする精神、「幽玄」は、ふつうの状態では隠れている神祕をそれぞれ指していることばで、どれも日本語そのものの性格によるものではなかった。「日本語では自然と人間を重ねあわせる」も同じで、それらは、日本の詩歌や物語をヨーロッパ語に翻訳する際の苦労のあまり、つい「飛躍したことをいったにすぎない。それを多くの日本人が癖のみにし、**オ**「神話」のようにしてしまっただけ。外国人の翻訳家よりも、むしろ、日本人の専門家の責任が問われるべきだと思っ

（鈴木貞美「日本語の「常識」を問う」による）

- 注1 象徴主義 一九世紀後半に、フランスやベルギーで起きた、文化・芸術の革新運動。
 注2 ステファヌ・マラルメ 一九世紀フランス象徴主義を代表する詩人（一八四二―一八九八）。
 注3 カルト 特定の対象を強く崇拜すること。
 注4 ウィリアム・ブレイク イギリスのロマン主義・象徴主義の詩人（一七五七―一八二七）。
 注5 ネルヴァル・ジェラルド・ネルヴァル（一八〇八―一八五五）。フランスのロマン主義の詩人。
 注6 メーテルランク・モーリス・メーテルランク（一八六二―一九四九）。ベルギーの象徴主義の詩人。

注7 タゴール ラビンドラナート・タゴール（一八六二―一九四一）。インドの詩人、思想家。

問一 線部A～Eの漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は**1**～**5**。

- A ガゴ
- ① 個性的なガゴでえがかれたアート。
 - ② 宮中のテンガな儀礼。
 - ③ ガシユウにとられる。
 - ④ 新年一般サンガに出席する。
 - ⑤ 事業の成功によってエイガを極める。
- B カンジャク
- ① 制限がカンワされる。
 - ② 表情にアイカンが漂う。
 - ③ カンワ休憩、本筋に話を戻す。
 - ④ 東京・大阪間をオウカンする。
 - ⑤ 保護カンサツの処分が下された。

C ゼンエイ

- ① 祖父のイエイに手を合わせる。
- ② 彼は新進キエイの作家だ。
- ③ 一等賞のイエイに預かる。
- ④ イエイ面に気を付ける。
- ⑤ 今日はいキを養っておこう。

D イタン

- ① タンセイな顔立ちをした人だ。
- ② 彼はゴワタンな性格をしている。
- ③ コタジの境地に達する。
- ④ 高級な食事をタンノウする。
- ⑤ タントウ直人な言い方だ。

E カタク

- ① 文明のオンタクに浴する。
- ② その考えは非常にタクバツだ。
- ③ 彼女の美家のタク、子面積は広大だ。
- ④ 彼女はクツタクのない性格をしている。
- ⑤ 今日には食事のシタクが忙しい。

問二 線部i「諧謔」、ii「寓話」、iii「精髓」の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は**6**～**8**。

- i 「諧謔」
- ① へりくだった内容の冗談。
 - ② 面白く気のきいた冗談。
 - ③ 含蓄のある冗談。
 - ④ 批判を潜ませた冗談。
 - ⑤ 場の雰囲気を読まない冗談。
- ii 「寓話」
- ① 教訓の意味を込めたたとえ話。
 - ② 比喩を交えた内容の笑い話。
 - ③ 神々の世界を題材にしたお話。
 - ④ 神秘的な要素を持った作り話。
 - ⑤ 宗教的性格を帯びた昔話。
- iii 「精髓」
- ① 周囲から尊重されるべき点。
 - ② 混じり気がなく最もよい点。
 - ③ 自身の長所と認識している点。
 - ④ 欠かすことのできない大切な点。
 - ⑤ 他と比較した時に目立つ点。

入試概要

総合型選抜

公募型学校推薦選抜

英語

数

生物

文化

国語

一般選抜

一般選抜英語

一般選抜日本史

一般選抜世界史

一般選抜生物

一般選抜化学

一般選抜数学

一般選抜国語

音楽実技

問三 ア、オ に入る最も適当な言葉を、次の①～⑤の中から一つを選び、マークしなさい(同じ記号は一

- ① いわば ② アが ③ イが ④ ウが ⑤ エが
⑥ オが ⑦ 9 ⑧ 10 ⑨ 11 ⑩ 12 ⑪ 13

問四 X、Y に入る最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つを選び、マークしな

- ① だから、象徴といふことが翻訳されると、その概念が広くもちいられるようになった
② そのため、中国では象徴にあたるものにはながあるのか、ということが模索された

- ③ そこで、中国では象徴に替わることばとして、表象をもちいることが行われた
④ が、象徴といふことばはなくても、それに似たやり方は中国にも昔からあった

- ⑤ また、象徴といふ概念はなくても、それと一致するものは中国にも存在していた
① 「日本文化の多様性」を考慮して、
② 「日本語のあいまいさ」をもちだして、

- ③ 日本とヨーロッパの違いを忘れて、
④ 「わび」「さび」や「幽玄」を説明するために、
⑤ 日本の専門家のことばを真に受けて、

- 問五 線部1「詩が民衆の上に君臨する」とはどのような意味ですか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から選

- ① 詩が宗教的な権威を帯びて、民衆に強い影響力を行使するということ。
② 詩が社会的な約束として成り立つ記号となり、民衆にとっての象徴となるということ。

- ③ 詩がキリスト教を排斥し、新たな権威となつて民衆を支配するということ。
④ 詩がキリスト教を相対化し、新たな価値観を民衆にもたらすということ。

- ⑤ 詩の持つ芸術性が世界を覆い、近代的な価値観をひっくりかえすということ。
問六 線部2「むしろ、日本人の専門家の責任が問われるべき」とありますが、筆者はなぜこのように考えるのでし

- ① 日本人の専門家が、日本語のあいまいさについてしっかりと研究をせず、外国の翻訳者が言及するまで放置して

- ② 外国の翻訳者が日本語を翻訳するに当たっては多くの苦労があるのに、日本人の専門家が、海外に十分な情報発信

- ③ 外国人研究者が、日本語の特質が日本語の「あいまいさ」に基づくことを、日本人の専門家は積極的に支

- ④ 日本人の専門家が、「わび」「さび」や「幽玄」といった日本独自の概念について、象徴主義に基づいて研究するこ

- ⑤ 日本文化に象徴的美意識を見いだす海外の理解が日本人の間に広まっているにも関わらず、日本人の専門家が、適切

問七 線部「日本の文芸は、日本語のあいまいさ、多義性を積極的に利用していると考えようになった」とは、文中の

- ① 「翻訳者」の考えを述べたものですが、その考えを筆者はどのように捉えていますか。最も適当なものを、次の①～⑤の

- ② 異なる文化を背景に持つ言語を翻訳する際の苦労については一定の理解を示しているものの、その考えには弱み足が

- ③ 従来、誤って理解されてきた芭蕉の俳諧を象徴詩として見直すなど、日本文学の解釈を改めるきっかけとなったこと

- ④ 「わび」「さび」や「幽玄」といった、これまで日本人の間でも十分に理解の行き届かなかった概念を見直すきっかけ

- ⑤ 日本文化の概念や実態をよく理解しないままに、日本語そのもののあいまいさによって、日本文化を理解しようとし

選択問題 二 I 読解問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

しばしば「自分の脳をもっと良くするにはどうすればよいですか?」という質問を受けることがあります。

A 私は、この考え方はいかげんかとも感じています。

人間にとっては、一見すると「弱み」に見える資質が、a 的に生存戦略上はメリットとして機能してきたか

らです。たとえば「合理性を欠く」という性質。これは一般的には無批判に「劣った性質」であり、人間の脳の機能的な「弱み」で

あるとみなされています。合理的に考え、b 的な思考を持つ者こそ、知能が高く、人間社会のヒエラルキーにおいて上位に立つべき者

である、という考え方が現代社会においては、c 的なのです。しかし本来は、この「弱み」が現代まで引き続いている理由があるはずで、だからこそ人間はここまで生き延びてくることが

できた、と考えるのが自然ではないでしょうか。実際、「不合理性を欠く」という「弱み」から得ているメリットも、人間には多くあります。そもそも、人類の歴史が「弱み」

を活かしてきた工夫の連続だとも言えるのではないのでしょうか。人類のキーンはアフリカと考えられています。豊かで気候の良い土地であり、生存にも生殖にも有利であったはず。条件の

良い場所が個体数が増えればそれだけで競争が激化します。B この土地で生き延びること自体がレッドオーシャン

(競争の激しい市場)化したのか、「自分組」たちはこの地を去りました。他種の生物を殺してつくった衣服をまとい、同種の人間のあいだでも資源を奪い合うようになりました。そうしなければ生

きていけないような、寒冷で厳しい環境へ移動、カクサンを続けていったのです。

I こんな選択をしたのは、なぜでしょうか？ C 競争に勝てないほど弱かったから、負け組だったから、というシラブルな理由づけもできるでしょう。しかしここで、人間が合理性に基づかない判断をしたからだと考えてみることもできます。

人間には、ほかの霊長類たちと比べると、新しい環境のほうを好む「新奇探索性」を強く持っている人たちがいます。このために、なまやさしい環境には満足できず、あえて厳しい環境へ、ドーパミンの刺激を求めて飛び込んでいかずにはいられない、ということです。そういう意味では、人間というのは D 業の深い生物とも言えます。

もしもこれが、現在のデイープラーニングとビッグデータの集積のような「AI」でなく、理想的なハングウ人工知能のように入合理的な判断だけを好む存在だとしたら、過去のデータの中でも特に確実なものをベースに、合理的に考えるのではないのでしょうか。

生存の確度が低いので北に移動することは避けるだとか、あるいは、現状よりは子孫を残すことに適さない環境であることが想定されるので移動は中止、などと判断するでしょう。

この「新奇探索性」は、「合理性」とはしばしば衝突する人間の「弱み」のひとつです。「わかっちゃいるけどやめられない」という昔の流行語が、わかりやすいフレーズでしょうか。やめられない何らかの楽しみであることもあり、人が道ならぬ恋に走るゲンキョウでもあり、いわゆる「**d**」的な行動を増長する仕組みです。これを人間が自力でコントロールするのはきわめて難しいことです。

仏教の言い回しを借りれば、コントロールしきろうとする行為は「灰身滅智」と言います。欲望の種を滅することは自らの身を灰にまで焼き滅するようなものだということです。(中略)

II 東洋思想の見方の一面からは、これがまさに自殺行為と言つてもよいものとさえ思われているのは面白いことです(中略)。重要な機能でありながらバグのようでもあるこの「弱み」を、外部から適度なゆるやかさでコントロールすべく当てたパッチ(プログラムを修正するデータ)が、社会道徳であったり、**e** 的倫理観であったりします。そう考えると、

人間をめぐるさまざまな現象のつじつまが合います。

(中野信子「空気を読む脳」による)

注1 ドーパミン II 快感、やる気、学習能力、運動機能や記憶力といった働きを司る神経伝達物質。

注2 デイープラーニング II コンピューター自らがデータに含まれる潜在的な特徴をとらえ、より正確で効率的な判断を実現させる技術や手法。

注3 ビッグデータ II インターネットの普及やITの進化で収集および蓄積が可能となった、膨大なデータのこと。

注4 バグ II 英語で「虫」の意であり、転じてコンピュータプログラムの誤りや欠陥のこと。

問一 〰〰〰線部1~4の漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①~⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は 31 ~ 34。

- 1 キケン
- ① 日本にかさする。
 - ② 赤をキチヨウとする。
 - ③ 財産をキタクする。
 - ④ キン回生の一撃。
 - ⑤ ムキトウな行い。
- 2 カクサン
- ① カクセイキによる演説。
 - ② 番犬にイカクされる。
 - ③ ガイカクから攻略する。
 - ④ 世間からカクゼツする。
 - ⑤ カイカクの先導者。

- 3 ハンヨウ
- ① 書物のパツレイ。
 - ② ハンシンロンを唱える。
 - ③ 著作のハンケン。
 - ④ ショハンの事情。
 - ⑤ 一家のハンエイを折る。
- 4 ゲンキョウ
- ① ハンキョウランになって騒ぐ。
 - ② 阿鼻キョウカンの地獄。
 - ③ キョウコウをきたす。
 - ④ キョウコウを占う。
 - ⑤ ザキョウに歌う。

問二 A ~ D に入る最も適当な言葉を、次の①~⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。(同じ記号は一度しか選べません。解答番号は、A が 35、B が 36、C が 37、D が 38。

- ① なんとも ② いっつしか ③ もちろん ④ ですが ⑤ やや

問三

① 論理 ② 宗教 ③ 支配 ④ 逆説 ⑤ 背徳

42. a が e が a が b が c が d が

43. e が a が 39. b が 40. c が 41. d が

問四 線部1「こんな選択をしたのは、なぜでしょうか？」とありますが、その「選択」の理由として最も適当なものを、次の①~⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 44。

- ① 人間とは合理性に基づいて判断するという原則があり、一見非合理的であっても必ず合理的な選択であるから。
- ② 人間は合理性を重んじるので、他者と競争せざるを得ない環境を求めるとは非合理的であると判断したから。
- ③ 人間の新奇探索性とは、人類が有するあらゆる可能性を追求するものであるから。
- ④ 人間には新奇探索性があり、厳しい環境へ刺激を求めて飛び込まずにはいられないから。
- ⑤ 人間は新奇探索性に基づく判断により、なまやさしいものよりも厳しい環境を意図的に選択するから。

問五 ー線部Ⅱ「東洋思想の見方の一面からは、これがまさに自殺行為と言ってもよいもの」とらえられている」とありますが、どういふことですか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。
解答番号は **45**。

- ① 人間の煩悩を完全にコントロールしきって断つという事は、人間そのものの心身を灰として無に帰することであり、自らの存在を消し去るに等しいということ。
- ② 人間の煩悩をコントロールしきるという行為は、悟りの境地に至って初めて可能となるものであり、自らの存在を灰のように消滅させなくては悟り得られないということ。
- ③ 東洋思想では、人間の煩悩を完全に断ち切らなくては自らの存在が灰となって消滅するととらえており、煩悩を抱き続けることは自殺行為といってもよいと考えられているということ。
- ④ 東洋思想では悟り得ることを最終的な目標としているために、死後に悟り得られればよいという考え方は、自らの存在を否定する自殺行為に等しいということ。
- ⑤ 東洋思想では煩悩を完全にコントロールしようと考えることそれ自体が欲望なのであり、その欲望によって生かされている以上、煩悩を消滅させることは、自殺行為に等しい無謀なものであるということ。

問六 ー線部「この「弱み」が現代まで引き続いて理由がある」とありますが、これについて説明した文章として最も適当なものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **46**。

- ① 人間は合理的な判断によるのみ発脱することができ、それを妨げるのが新奇探索性である。新奇探索性は人間にとって重大な欠陥とも言えるものであり、それによって生じる損害を最小限にしない。人間は現代にいたるまで集積された過去の記憶や歴史から得る教訓によって、新奇探索性をコントロールしてきたのである。
- ② 人間は合理的な判断を下すことを義務づけられていながらも、それが新奇探索性によって阻害されることが往々にしてある。新奇探索性は人間から適切な判断を奪い、他者との非合理的・過剰な競争を生み出し続けてきた。とはいえ、その競争こそが人間の歴史を形成し発展させる重要な要素となってきたと言えらる。
- ③ 人間は合理的に生きることを求め続けなくてはならないという、いわゆる新奇探索性を抱えている。新奇探索性は自らを道徳的・倫理的にコントロールすることで強化され、また人間を破壊から救うものでもある。新奇探索性は自らを道徳的・倫理的にコントロールすることで強化され、また人間を破壊から救うものでもある。新奇探索性は自らを道徳的・倫理的にコントロールすることで強化され、また人間を破壊から救うものでもある。
- ④ 人間は合理的に生きられないという問題を常に抱えているが、それを補うのが新奇探索性であった。新奇探索性は人間を未知の冒険へと導き、生存競争を勝ち抜くことを可能にするものである。たとえそれが道徳や倫理観に背き、非難を受けるものであったとしても、結果として合理的な成果を獲得することで歴史は発展してきたのである。
- ⑤ 人間は常に合理的な判断を下すわけではなく、しばしば非合理的に見える新奇探索性を有する。新奇探索性は人間をおびやかす、危険にさらす場合もある。とはいえ、非合理的な新奇探索性が新たな開拓や工夫を促す原動力となってきたのも事実であり、それが行き過ぎないように道徳や倫理観により適度にコントロールされてきたと言えらる。

Ⅱ【語彙問題】
問一 ア～オは四字熟語です。解答番号は、アが **47**、イが **51**、ウが **48**、エが **49**、オが **50**、オが **51**。

ア	和雷同	47
イ	泰然若	48
ウ	夜自大	49
エ	工明鏡	50
オ	比翼連	51

⑤	④	③	②	①
郎	露	勞	樓	朗

⑤	④	③	②	①
浮	不	負	付	扶

⑤	④	③	②	①
姿	止	思	詩	紫

⑤	④	③	②	①
次	事	自	似	耳

問二 カ～コのことわざ・慣用句の意味として最も適当なものを、それぞれの①～⑥の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号はカが **52**、キが **53**、クが **54**、ケが **55**、コが **56**。

カ	足もとから鳥が立つ	52
キ	瓢箪から駒	53

⑤	④	③	②	①
利	離	璃	理	裏

⑤	④	③	②	①
急	思い	思	い	が

⑤	④	③	②	①
小	さ	な	な	な

ク 角を矯めて牛を殺す

- ① 敵の弱点を的確に攻撃して、確実に減はすこと。
- ② 強大な力を持った敵を、やっとの思いで打ち負かすこと。
- ③ 長所に見えぬ部分が、実は致命的な弱点であったということ。
- ④ わずかな欠点を直そうとして、全体を駄目にしてしまうこと。
- ⑤ 実力をたくわえて、好機を生かし成功すること。

ケ 気が置けない

- ① 打ち解けて楽に付き合える様子。
- ② 油断することができない様子。
- ③ 集中できず注意散漫な様子。
- ④ 何となく悪意が感じられる様子。
- ⑤ 必要な配慮が行われない様子。

コ 手塩にかける

- ① 身体を清潔に保ち健康的に過ごすこと。
- ② 面倒を見て大切に育てること。
- ③ ちょうどよい具合になるよう調整すること。
- ④ 良かれと思ったことが逆の結果を生じさせること。
- ⑤ 習慣が身につくように努力すること。

選択問題 三 次の文章は、夫が鎌倉から女を連れ帰ったことに怒った妻が、能の役者から鬼の装束を借りた後の場面です。読んで、後の問いに答えなさい。

やがてその日も暮れば、かの半切取つて付け、赤頭あかかぶかぶり、打杖うちづえとつて、わが家を忍び出て、ただ一人、外の女房の所へ忍びやかに門を開けて内に入り、ややしばらくためらひけり。はや人氣も静まり、小夜更け方にもなりけるに、窓よりのぞきて見れば、年十七八の女房の翡翠ひすいのかんざしゆり乱し、顔の絶え間よりほかに見ゆる眉墨まゆぶいづくし、紅の小袖脱ぎかけて、油火あぶらびのはのと立てさせ、草子くさこうち見て居ながら、空薫あかきして匂におひ、顔かほばせ世の常ならず。「鏡捨山かがりだにに清見閣しみんかくを並べ、柳が枝に桜の花を咲かせ、梅の匂におひを匂におはせても、なほ飽あかずなり。姿ものによくくとふれば、漢の武帝の妃き、李夫人りふじん、または楊貴妃やうきけいもこれにはいかでまざるべき。いかなる心なき人なりとも、この姿を見れば、静心なき恋とも惚まよれつべき人なり。それにわが影を並ぶれば、年半ばも老け過ぎたる女の、色黒く髪赤く、子持こもちちが母の恥ちづかしく、また打ち返し思ふやう、「いかにわが姿美しければとて、人の夫を取るものか。あら恨めしや、情けなや」とまもり居る折節に、かの女房の乳母ちちを召して、「何とやらむ。いつよりも今宵けふは心こころすく、殿とのの御手ごてのみ思はるぞや。あはれあはれ、とく御下りあれ。」

a さらぬだに、一人寝覚めの晩はもの寂さびしきものと語りて、かくなむ、
山鳥の尾おの上の雲うを隔へてても心は君きみに添そはぬ間まぞなき
なむ、うち詠よじておほはけり。「中略」桐壺きりかほこの由よしを聞き申まをすやう、「はや、殿様も御下り時ときになりて候まをふ。いかに、御下り候はば、いつよりもなほ、様々の御情ごじやうけどもましますらむ」と語りける。
元の女房、これを聞き、なほも腹はらや立ちけむ。「あら腹立ちや。いで、取つて行かむ」と言ひて、間まの障子しやうしを跳ね破り、内に乱れ入りければ、慌あわて騒さわぎ、これを見れば、顔は鬼おにとやらむ、眼にも見えず、音ねにこそ聞きけ、「恐ろし」と言ひ、「なほなほおろかなり。肝魂かんたまも消え果はれて、絶え絶えとなるころを詰め、叩たたきに叩たたけば、「恐ろし」と言ひ、また「打たる」と言ひ、「一方ならぬ苦しみ、いまだいと若わかき女房なれば、たちまちに殺されけり。「うこそ無念散むねんさんじたれ。桐壺きりかほは居ぬか」と尋ねけ

れば「恐ろしや。鬼よ」とて、呼ばはりて逃げ去りぬ。
私もこれを説き給ふ、「さるほどに、一見ひとみ面菩薩めんぼつさつ胸内きょうない心鬼しんおにとて、面の姿はいつくしく、まことに菩薩ぼつさつの形に似たれども、心は鬼よりもなほ勝るのみなり」と、西行法師さいぎやうほうしやうが歌にも女房の心のことを、世の中に女性にょせいの心直こころただならば牝牛めうぎうの角つのかどや定木じやうぎならましと詠みけるも理ことわりなるかな。
(中略)

さて、わが箱はこり掃はりて顔に付けたる面を取らむとすれば、鎖くわにて締め、釘くわにて打ち付けたるよりも強つよく、首くびはもげてのくとも離れ難なく、また手に持たたる杖も離れず。まことに、本来ほんらい悪念あくねんの鬼おにとぞなりたりける。「あなまましや。こはいかに、何となくなるべき愛あいまき身みぞや」。人に目めをむも恥ちづかしく、夢ゆめとも現まとも覚さえず、夜もすがら泣き明あかす。
夜もはや明けければ、かくて人に見ゆべきにもあらざれば、後ろの山やまに大きな木の本もとに忍しのびて居たりける。恐ろしきかなや、姿が鬼おにになりければ、心も鬼おににやなりぬらむ。「あはれ、人の来たれ」
b 少すこし食たりて飢うえを休やすめむ」と思おもふばかりにて、今は別の心少しもなし。里さとに出でてもさすがなり。

- 注1 半切はんせき：能表束ねひやくの袴はかまの一つ。
- 注2 赤頭あかかぶ：能や歌舞伎で用いる、毛を赤く染めた髪。
- 注3 打杖うちづえ：能などで用いる小道具の一つで、鬼などが持つ杖。
- 注4 油火あぶらび：油あぶらに灯心とうしんを浸してともす火。
- 注5 鏡捨山かがりだに：現在の長野県千曲市にある冠着山かむりぎやまの別名。月の名所として知られる。
- 注6 清見閣しみんかく：現在の静岡県静岡市の興津おきづにあつた古閣。景勝地である清見閣しみんかくに設けられた。
- 注7 李夫人りふじん：前漢の武帝の夫人。美女として知られる。

問一 線部ア、オの意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。
解答番号は「61」「65」。

- ア「飽かず」**61**
 - イ「心なき人」**62**
 - ウ「心すく」**63**
 - エ「言ふもなほおろかなり」**64**
 - オ「さすがなり」**65**
- ① 飽あきることがない
 - ② つまらない
 - ③ もの足りない
 - ④ まさるまさることがない
 - ⑤ 思いつかない
 - ① 無情むじやうな人
 - ② 考えのない人
 - ③ 思いやりのない人
 - ④ 悟さとりを開いた人
 - ⑤ 情態じやうたいを解さない人
 - ① 心がすさみ
 - ② 大変楽しく
 - ③ もの寂さびしく
 - ④ 心の底そこから
 - ⑤ 心安く
 - ① 言ことわれてもまったく驚おどかない
 - ② どんなに言ことつてもますます通とじない
 - ③ そうは言ことつてもやはり仕方がない
 - ④ 口くちに出でてもいっそう悪わるかなことである
 - ⑤ それでもやはり言い尽つくせない
 - ① さすがなり
 - ② 良い方法である
 - ③ 良くないことである
 - ④ 決心けつしんがつかない
 - ⑤ すぐにはできないことである

入試概要
総合型選抜
公募型学校推薦選抜
英 公募型学校推薦選抜
数 公募型学校推薦選抜
生 公募型学校推薦選抜
物 公募型学校推薦選抜
化 公募型学校推薦選抜
学 公募型学校推薦選抜
国 公募型学校推薦選抜
語

問二 a . b には同じ助詞が入ります。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **66**。

① ばや ② かし ③ かな ④ なる ⑤ なむ

問三 〰〰線部 b f 「て」について、〰〰線部 a 「つ」と文法的に同じものはどれですか。次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **67**。

① b ② c ③ d ④ e ⑤ f

問四 〰〰線部 A 「おはし」、B 「申す」、C 「まします」の敬語はそれぞれ誰に対する敬意を表していますか。最も適当なものを、それぞれの①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。(同じ記号を何度選んでもかまいません)。解答番号は A が **68**、B が **69**、C が **70**。

① 元の女房 ② 外の女房 ③ 桐壺 ④ 夫 ⑤ 鬼 ⑥ 西行法師

問五 A に入る最も適当な言葉を、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **71**。

① ゆがめる ② 正しき ③ 荒々しき ④ いくつしき ⑤ 直なる

問六 〰〰線部 1 「まり居たる」はどのようにしていることですか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **72**。

① 鬼の装束を身に着けていることで、その姿を見られることをためらい、息を殺して隠れていること。

② 若い女の美しさを見とれてしまい、このような人を恨んだことを情けない思い、見守り続けていること。

③ 若い女の美しさを見入りつつも、夫を奪われた恨みを果たそうと、様子をかがいながら座っていること。

④ 連れてきた女房の桐壺と話をしながら、女の様子をじつと見つめて座っていること。

⑤ 若い女にいつ気付かれるか分からないと警戒し、自分の身を守りながら様子をうかがっていること。

問七 問題文の内容に合致するものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **73**。

① 妻は女の美しさをのぞき見て、自分と比べてその容姿を恥じ、自分の姿を隠そうと変装した。

② 夫は若い女のもとからも足が遠のいており、女は一人過ごす日々を嘆いていた。

③ 妻は女の詠んだ和歌と乳母との会話を聞き、よりいっそう怒りを覚え、そのまま押し入った。

④ 妻は女のところへ押し入り、打ち殺してしまつたのを、自分の女房の桐壺に見られてしまつた。

⑤ 女は鬼の姿となつてしまつたが、その姿を恥じ、心は人間の理性を保ち続けている。

問八 〰〰線部 2 「西行法師」の歌集を次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **74**。

① 金槐和歌集 ② 金葉和歌集 ③ 拾遺愚草 ④ 山家集 ⑤ 秋篠月清集

(国語問題 おわり)

国語〔中期 2/16〕 (時間：他の試験科目 1科目とあわせて 2科目で120分)

一般選抜
一般選抜英語
一般選抜日本史
一般選抜世界史
一般選抜生物
一般選抜化学
一般選抜数学
一般選抜国語
音楽実技

一 次の文章は、主に明治時代に活躍した浮世絵師、小林清親について述べたものです。読んで、後の問いに答えなさい。

小林清親(一八四七―一九一五)は、明治九年(一八七六)に版元の松本平吉から、「東京銀座街日報社」「東京新大橋雨中図」^{注1}「東京橋渡黄昏景」^{注2}「東京小梅曳船夜図」^{注3}「三重橋前乗馬」^{注4}の五点を、光線画^{注5}と称して発表し、明治十二年(一八七七)頃に版元を福田熊次郎にかえながら、明治十四年(一八八二)までの間に九十二点の風景版画を発表した。光線画^{注5}という名称とおり、江戸から東京へと移りゆく風景を主題に、光と影の様相を細やかに描きとめた。これらの作品は、いつしか一連のシリーズとみなされ「東京名所図」と呼ばれている。

清親に続いて、井上安治(一八六四―一九〇九)や小倉柳村(生没年不詳)が光線画^{注5}を制作していることから、清親が創りだした光線画^{注5}が人気を **い** いたことが分かる。

光線画^{注5}は、文明開化によって大量に流入するようになった西洋絵画や、写真、石版画や銅版画などから、目に見えるままに絵面化する **ろ** を学び、浮世絵版画から続く伝統的な木版画の技術を用いながら、 **は** になかった光と影の表現が行われている。

近年の研究では、明治初期の洋画家の間で流行した「テネブリズム(暗闇主義)」という西洋絵画の表現様式の影響の下に、光線画^{注5}が登場したと説かれている。清親が同時代の洋画家のドゥゴウ^{注6}に関心をもっていたことは **X** である。しかしテネブリズムの特徴が、ゲキテキな明暗の対比であるのに対し、光線画^{注5}における清親の関心は光の階調^{注7}にある。

また、光線画^{注5}では、光と影の表現のために空や雲の多彩な描写が行われており、清親の繊細な感性に注目したい。

光線画^{注5}の彩色は、写真や石版画を模したとも言われている。当時の日本では、彩色を自在に行うことができる印刷技術は木版画^{注8}だけであつたので、新しい技術に対抗することができた。また写真や印刷は瞬間を表現するものだが、光線画^{注5}では時間の経過によって刻々と変化する光をとらえるために、同じ版木で摺りの表現が異なる「摺り違い」を制作している。この時間の経過に対する感覚は、同時代の西洋で活躍した印象派の画家と共通するもので、清親の方が **に** している。一八九二―一九三三年、明治廿五―三十二年に制作されたクロード・モネのルーアン大聖堂を描いた連作よりも、光線画^{注5}の方が十年ほど早く出版されているのである。

光線画^{注5}の魅力は新しさだけではなく、清親の晩年、永井荷風や木下杢太郎、北原白秋など江戸懐古趣味をもつ文芸者たちが、江戸の名残を留める東京の風景が描かれた光線画^{注5}の **は** な魅力を再評価し、彼らの制作活動のゲンゼツ^{注9}とした。

清親作品の本質は、彼の生い立ちと深く結びついているように思われる。清親の父は、本所御蔵屋敷に勤める下級の幕臣で、父親が没すると清親がカトクを継いだ。幕末から明治にかけての混乱期、旧幕藩の人々は望まない境遇や異なる価値観を受け入れざるを得なかった。清親もまた幕臣としての苦しい時期を経たことで、維新後に絵師として再出発を果たした後も、江戸への深い哀惜の情と時流に流されて生きていることへの諦観を抱き続け、また社会的な弱者や大衆に対する共感をもつに至つたのではないだろうか。

明治十四年(一八八二)頃から手がけた「ボシチ絵」^{注10}や「団団珍聞」^{注11}の挿絵などの風刺画には、大衆や弱者の側に立つ清親の姿勢と物事を穿った視点が認められる。明治十七(一八八四)年(一八八四)に出版した挿物「武蔵百景」^{注12}は、歌川広重の「名所江戸百景」を下敷きにして、新田の風俗を印象的に対比させる構図によって、強い江戸回顧趣味を感じさせる。明治二十九(一八九六)年(一八九六)に出版した挿物「日本名勝図会」^{注13}は、歌川広重の「六十余州名所図会」^{注14}の体裁をトウシユウ^{注15}しながら、水彩画の表現を試みる新しい版画といえよう。明治二十七(一八八四)年(一八九四)に手がけた日清戦争を主題にする戦争画は、大衆の期待に応える時事報道的な主題であり、得意とする光と影の表現を効果的に用いて、感傷的な風景画にシヨウカ^{注16}されている。晩年まで描き続けた水彩画は、日本における最初期の水彩画として貴重なものであるが、美術団体に属

していない清親の作品が展覧会で発表されることはなく、あくまでも個人的な営みであった。木版画の出版が途絶えた明治三十年代を中心に手がけた肉筆画も、ほとんどが私的な存在の絵画である。

iii 市井に活躍したこともあり、その画歴の全貌は明らかではないが、清親に関する研究が進むにつれて、ますますその存在の大きさが認識されている。現代においても色褪せない魅力をもつ清親は、まさしく近代絵画の巨人の一人である。

(吉田洋子「近代絵画の巨人 小林清親」による)

注1 版元＝印刷物の出版・発行を行うところ。

注2 木版画＝石板・銅板を用いる版画に対して、^{版木}と呼ばれる木の板に文字や絵を彫って紙に刷る印刷技法で作られた版画のこと。

注3 ポンチ絵＝風刺などを目的とした滑稽な絵。

注4 「団圓珍聞」＝明治初期の風刺画雑誌。

注5 挿物＝浮世絵で、複数の絵で一セットとなるシリーズ物のこと。

注6 歌川広重＝江戸時代の浮世絵師(一七九七～一八五八)。

問一 ……線部A～Dの漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。

解答番号は、**1**～**6**。

<p>A</p> <p>ドウコウ</p> <p>1</p> <p>① コウミヨウな観。</p> <p>② コウトウ無稽な設定。</p> <p>③ コウジョウのな収入がある。</p> <p>④ コウガク心にもえる。</p> <p>⑤ ノウコウな味わい。</p>	<p>B</p> <p>ゲキテキ</p> <p>2</p> <p>① ゲキジョウ中継を観る。</p> <p>② カケキな思想を抱く。</p> <p>③ カケキを縫う。</p> <p>④ コウケキ的な性格。</p> <p>⑤ ゲキレイの演説。</p>	<p>C</p> <p>ゲンセン</p> <p>3</p> <p>① センケンの明がある。</p> <p>② ウイルスのセブク期間。</p> <p>③ 濁してもトウセンの水を飲まず。</p> <p>④ センザイ一遇の機会。</p> <p>⑤ 皆のセンボウの的になる。</p>	<p>D</p> <p>カタク</p> <p>4</p> <p>① トクゾツな人柄。</p> <p>② トクメイの投書。</p> <p>③ トクガンの配慮。</p> <p>④ 重大なカントク責任。</p> <p>⑤ アクタク商法。</p>
<p>E</p> <p>トウシュウ</p> <p>5</p> <p>① トウダイもと暗し。</p> <p>② 心理的カッタウ。</p> <p>③ 人材のトウヨウ。</p> <p>④ 部下のトウツツ。</p> <p>⑤ 実地トウサを行う。</p>	<p>F</p> <p>シヨウカ</p> <p>6</p> <p>① みずみずしいカジツ。</p> <p>② レンカな商品。</p> <p>③ カドウ率を上げる。</p> <p>④ 噂のカチユウの人。</p> <p>⑤ ゴウカ絢爛な舞踏会。</p>		

問二 ……線部i～iiiの漢字の読み方として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。

解答番号は、iが**7**、iiが**8**、iiiが**9**。

i 名残 (1) めいざん (2) なごり (3) みようさん (4) なこし (5) みようさん)

ii 体裁 (1) ていざつ (2) たいしよく (3) たいざい (4) ていざい (5) たいざん)

iii 市井 (1) しがい (2) いちい (3) しじよう (4) せいじよう (5) しせい)

問三 ……線部い～ほに入る最も適当な言葉を、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。

解答番号は、い**10**、ろ**11**、は**12**、に**13**、ほ**14**。

い (1) 弄して (2) 奏して (3) 博して (4) 徴して (5) 徴して)

ろ (1) ダイナミズム (2) センテナンタリズム (3) ニヒリズム (4) マンネリズム (5) リアリズム)

は (1) 道 (2) 理 (3) 知 (4) 真 (5) 礼)

に (1) 先行 (2) 煽動 (3) 強行 (4) 凌駕 (5) 追隨)

ほ (1) マニアック (2) エキゾチック (3) ドラマティック (4) ノスタルジック (5) アーティスティック)

問四 ……線部甲「階調」、乙「穿った」の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は、甲が**15**、乙が**16**。

甲「階調」

① 影との鮮やかなコントラスト。

② 技術の段階によって調整された描き方。

③ 色や明るさの細やかな段階。

④ 格調高い自在な表現。

⑤ ドラマティックな色の変化。

乙「穿った」

① 本質を鋭く見抜こうとすること。

② 殊更に疑ってかかるような見方をすること。

③ 意図的に自分以外を批判的に見ること。

④ 脱俗の志向を持つこと。

⑤ むだにあれこれ詮索すること。

問五 問題文中の「X」に入る最も適当な語句を、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。

解答番号は 17。

- ① 想定内のことではない
- ② 評価に値しない
- ③ 想像を絶する
- ④ その評価を決定づける
- ⑤ 想像に難くない

問六 線部「光線画」の魅力とありますが、清親の描く光線画についての筆者の考えを述べたものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 18。

- ① 清親の手がけた光線画は、伝統的な木版画の技術を用いながらも、明治以降西洋から輸入された絵画・写真・版画などから新しい様式・技法を学び取り、時事に即した画題も扱うなど、情趣よりも合理的な表現を追求したものである。
- ② 清親の手がけた光線画は、旧幕臣という彼の出自の影響もあって、前時代への郷愁に強く覆われており、明治初期の洋画家たちの間で流行していた西洋絵画の新しい様式には批判的な作者の意識が強く反映したものととなっている。
- ③ 清親の手がけた光線画は、明治以降流入してきた西洋の絵画や写真などから目に見えるままに絵画化する技法を摂取したことで新しいスタイルを確立し、それ以後も専ら西洋絵画の影響下にあり水彩画の制作などに向かっていた。
- ④ 清親の手がけた光線画は、彼が旧幕臣であったことから江戸懐古趣味が強く、それとの対比で「東京」への違和感が透けて見えるものとなっており、新時代の現実に対応したり、その魅力を引き出し出しするよう工夫は、欠落している。
- ⑤ 清親の手がけた光線画は、西洋の絵画・写真・版画から学ぶ面がありつつも、光の時間の経過に伴う推移を細やかに写し取るうとする繊細な特色を持っており、それを支えたのは、伝統的な木版画で培われてきた技法であったと言える。

問七 小林清親の画業についての筆者の考えとして適当ではないものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 19。

- ① 清親作品の本質は、西洋から輸入された絵画や写真などから学んだ新しい点がある一方で、前時代を懐古する趣味を持つ文学者たちの創作活動の支えとなるような、失われてゆく江戸の面影をいとおしむ情緒をたたえているところにある。
 - ② 清親は優れた作品を残し、その魅力が現代でも評価されているが、生前の彼では、旧幕臣としての苦しい体験から時流に何の抵抗もなく乗ることができない面があり、「近代画壇の巨匠」というような公的立場になることはなかった。
 - ③ 清親が、美術団体や展覧会など画壇と呼べるようなところから距離を置き、個人で活動し続けたのは、旧幕臣としての経歴から江戸情緒を哀惜するがあまり、新時代の時局に即した作品を作ることを拒否し続けたからにはかならない。
 - ④ 清親は、旧幕臣としての苦しさを味わった自身の体験から、大勢に与するよりも社会的弱者や大衆に寄り添おうとする姿勢を持つに至り、大衆の期待に応えるような作品も作成しているが、そこには独特の感傷性が加味されている。
 - ⑤ 清親は、幕末から明治への過渡期に、望まない境遇や価値観の変化を受け入れざるを得なかった体験から、社会的弱者や大衆への共感が育まれることになり、それが世を風刺する作品の制作へ繋がっていった面があると思われる。
- 問八 問題文中に出てくる永井荷風の小説作品名を、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 20。
- ① 刺青 ② 夜明け前 ③ 倫敦塔 ④ 伊豆の踊子 ⑤ あめりか物語

二 次の文章は江戸時代後期の俳人、栗田栲堂(1749年～1814年)の「月夜うし」という文章の一節です。読んで、後の問いに答えなさい。

秋はものあはれもことなりけるに、月見ることまたをかしけれ。思ふきは、見ぬ世の人も今あひ見しやうにおもひ、つねにもの問ふ友人も、月見る宵のほど、言ひやらざるにとく来たりにける。顔さしむかふさへいとめづらかなる心地こそしけれ。なにかはとさまかうさまにいそぎてものがたり出でたるぞまたをかしき。

(中略)

月はまた十日ばかりこそをかしけれ。さすがにものがるほどどやかかいつりたるに、ちち雨過ぎし雲間よりもれ出でたるぞことにかしき。寝るにもをかし、かへるべき人もせちに言ひとめづつ、今ひとつなむと酒すめたる。また興ありけり。草むらにすだくきりぎりす、壁によるいとど、こほろぎ、みなおのれおのれがあはれをこそ啼かぬれ。何かとりあつめたるそ秋の夜のをかしきなりける。

鈴むしの夜祭しらせる垣根かな

待つ宵の月の名だたるこそをかしけれ。あすはいつれのかたにまからむに、誰々など思ひさだめたる、いとおぼつかぬ。今この今にかはり行くこそ人の世のつねなりけり。こよひは月も少しばかり見残したらむ。なほ心憎くこそあらめ。ウ秋の最中^アは、妻宿^イとやらむにめぐりて月のひかりことにてめでたければ、今もむかしもかしこ人のもてあそぶこそ、げにことなりければ、御理^エのうちには言ふもさなり。玉の台のたのしきはしるべくもあざりけれど、高き人富める人みなことしづかならざれば、月見るににのよすがやありけむ。山野にさすらひ江湖に棹さしわたるも、風興^カころにもとむるならは、またたるほしけれ。ものしれる顔して月前に輪のかたぶくをかこち、世をうとして山のおくにも住まはかほなど思ふ、おほくは無徳^キのことにのみして、さらにせむすべなし。いづこにもあれ、たよりよき処に兼一東^ク得たらむには、やがて打ち歌きつつ、思ふべきくまへなくして、ひとりこよひの月を月とのみ見たらむこそ、月のころにも何か取ぢらふべきや。いとをか

しけれ。見え初めはや夜を照らすけふの月

- 注1 見ぬ世の人昔の人。
- 注2 いとどハバツタ目カマドウマ科の昆虫。
- 注3 妻宿ハ星座の名。二十八宿の一つ。牡羊座の三つ星。
- 注4 無徳ハ貧しいこと。

問一 線部「ア」～「カ」の中から一つずつ選び、マークしなさい。

解答番号は、アが 21、イが 22、ウが 23、エが 24。

- ア「とさまかうさま」 21
 - イ「せちに」 22
 - ウ「秋の最中」 23
 - エ「言ふもさらなり」 24
- ① あれやこれや ② あちらこちら ③ 何ということなく ④ 慌ただしく ⑤ よそよそしく
 - ① 浅はかな知恵で ② 親切心で ③ 馳走をして ④ 時節がら ⑤ どうしてもと
 - ① 八月十四夜 ② 八月十五夜 ③ 八月十六夜 ④ 九月十三夜 ⑤ 十月十五夜
 - ① 言つてもしかたがない ② 言うまでもない ③ 言わない方がよい
 - ④ 言うにこしたことはない ⑤ 言うことができる

問一 線部1「言ひやらざるにとく来たりける」とありますが、友人はなぜやって来たのですか。その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **25**。

- ① 月夜は明るいので夜道が安全だから。
- ② 明日まで待つてはられない事情があるから。
- ③ 月のすばらしさをともに愛でようと思ったから。
- ④ 普段からよく行き来をしていたから。
- ⑤ 親友との昔話を楽しみにしていたから。

問二 線部2「寝るにもし」の現代語訳として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **26**。

- ① 寝てしまおうとは思っていない
- ② 今さら寝るわけにはいかない
- ③ 寝て見る月もおもしろい
- ④ もう寝る時刻を過ぎてしまった
- ⑤ 何とか寝させて泊まらせよう

問三 線部3「いとおほつかなし」とありますが、作者がそう思うのはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **27**。

- ① 明日とこへ月見に出かけるかは誰にもわからないから。
- ② 明日になると自分の気が変わってしまうかもしれないから。
- ③ 明日は明日で予想外の急用が入ってくるかもしれないから。
- ④ 月は十四日の月の方が趣深く見ることが出来るものだから。
- ⑤ 世の中は無常で明日も月が見られるとは限らないから。

問四 線部4「こひは月も少しばかり見残したらむ、なほ心憎くこそあらめ」の現代語訳として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **28**。

- ① 今夜は月を満ち足りるまで觀賞せず明日に楽しみを取っておくのは、一層心ひかれる感でである
- ② 今夜の月が顔を見せただけで隠れてしまったらしいのは、やはり恨めしく思われる
- ③ 今夜の月がまだ少しだけ欠けているのは、明日が期待されて何とも待ち遠しい気持ちがある
- ④ 今夜は皆で月見をするのではなく、見ることのできない人も少しはいることが、何とも残念に思われる
- ⑤ 今夜の月を少し見るだけにしておくというのは、月見の作法としておくゆかしい限りである

問六 線部5「玉の台のたのしきははしるべくもあらざりけれど」の現代語訳として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **29**。

- ① 高台の不安定な住居に住むような楽天的な人にはなれないけれど
- ② 美しい建物のすばらしさを自分のものとするには叶わなければ
- ③ 立派な御殿に住む裕福な人のことは知りようもないけれど
- ④ 高殿からの見事な眺望は他からは見ることができないものだけれど
- ⑤ 極楽の蓮の座に上ることをあてにすることはできないけれど

問七 線部6「思ふべきまゝなくして」の現代語訳として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **30**。

- ① 薬のふとんの隅隅までも平らにして
- ② 心の中にも何の気にかかることもなくて
- ③ 月を隠す雲さえ一つも無くして
- ④ 考えられるだけの欠点も改めて
- ⑤ 月の光が当たらない陰もなくして

問八 線部a「なむ」の文法的説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **31**。

- ① 終助詞
- ② 助動詞の未然形+助動詞の終止形
- ③ 係助詞
- ④ 代名詞「何」の音便形
- ⑤ 副助詞

問九 線部b「さらにせむすべなし」を品詞分解したものととして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **32**。

- ① さらに／せむ／すべなし
- ② さらに／に／せむ／すべなし
- ③ さらに／せ／む／すべ／なし
- ④ さらに／に／せむ／すべなし
- ⑤ さらに／せ／む／すべなし

D 国語

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ネットではマスメディアより選択的接触が簡単にできるので、自分好みの情報源だけに限ることができて偏った情報に接するといった議論をしてきた。しかし、現実にはそのような事態は見られない。この予想と現実のズレが生じたのはなぜであろうか。二つの理由を考えてみる。

第一の理由は、マスメディアと比較する際、コストの面を無視していたことである。ネットでは自分の好きなように簡単に情報源を選べる、すなわちノーコストで情報源の取捨選択が可能であり、自分好みの情報を選ぶことができる。しかし、逆に言えば自分と意見が異なる相手情報源に選ぶこともノーコストで可能である。【一】

マスメディアの場合は情報取得にコストがかかる。【a】新聞の場合、一紙取るのに4000円程度の費用がかかる。反対意見を知るためにも一紙を追加購読することはコスト的な負担が重く、普通の人にはききそうもない。紙雑誌も一冊500円〜1000円程度はする。テレビ番組の場合は無料であるが、その代わりに番組の放送時間にテレビの前に座っていなければならない。録画するにしても、録画を見るためには一定時間を割かなければならない。一定のまとまった時間帯をその番組のために割り当てることは生活パターンを変えることであり、【b】コストがかかる。そのコストをかけてまで反対意見の番組を見ようという人は限られてくる。【二】

これに対してソーシャルメディアで反対意見を聞くことは簡単である。反対意見の人のツイッターなどをクリックしてフォローするだけでよく、あとは自動的に反対意見が聞こえてくるようになる。特別に追加費用をかけることはなく、まとまった時間を割く必要もない。ネットの場合、反対意見を取得する金銭的・時間的コストは、従来のマスメディアに比べると圧倒的に安いのである。【三】

すなわち、簡単に情報の取捨選択ができるということは、反対意見の取得も簡単にできることであり、(中略)この点を見落としていたのである。【四】

(中略)もう一つの理由は、一部の現象がコトコトと見えてくるネットの特性である。(中略)それが一部の人の現象にすぎなくても、ネットの特性として【a】 人の主張が非常に目立ち、一部の現象が全体の現象であるかのように大きく見えてくることである。【v】

たとえば、大きな炎上事件が起こると、ネット上のすべての人が批判をしているような印象が生まれるが、炎上事件に書き込んだ経験のある人は調査してみると1%程度しかないことがわかっていく。特に何度も書き込みを繰り返すような攻撃的な人は、一つの炎上事件で数十人にとまるとすら珍しくない。数十人の人間が掲示板・ソーシャルメディアなどで継続的に書き込みを行っているだけの事件が、ネット上の【c】 であるかのように見えてしまうのである。(中略) ネットでは一部の人の行為が大多数の人の行為に見えてしまう構造がある。【d】 ネット上で過激化していくエコーチェンバー的な現象が全体のごく一部であっても、それは非常に目立ち、【e】 ネットユザ全体の現象のように見えてくれないかと思われ、多くの論者がネットが社会を分断するといった懸念を抱いたのは、一部であるが自立つ現象をネット全体の傾向と見てしまった——正確に言えば見誤った——からと考えられる。

ネットでも聞く意見の4割は反対側の意見であり、【d】 賛成・反対の両側の意見を聞いていることになる。このように両側の意見を聞いているうちは、エコーチェンバーのような分極化は起こりにくい。【e】 両側の意見を聞くことと分極化は起こりにくい。興味深いジジコウ実験のひとつを紹介しておこう。ペンシルバニア大学のクルツとモエラは通勤バスの中で流すラジオ放送を政権批判的な内容と擁護的な内容に分け、聞く前と聞く後で意見がどう変化するかを調べた。用意したのは4種類のラジオトーク番組である。(一) 政権批判ばかり流すラジオ。(二) 政権擁護ばかり流すラジオ。(三) 批判と擁護の両方を流す

入試概要 総合型選抜 公募型学校推薦選抜 公募型学校推薦選抜 英語 公募型学校推薦選抜 学 公募型学校推薦選抜 物 化 公募型学校推薦選抜 学 国 公募型学校推薦選抜 語 一般選抜 一般選抜英語 一般選抜日本史 一般選抜世界史 一般選抜生物 一般選抜化学 一般選抜数学 一般選抜国語 音楽実技

ラジオ。(4) ラジオなし、である。彼らは58名の通勤バスルートにこの4つをランダムに割り当てて15日間固定してどれかを流しつづけた。15日後にそのバスに乗っていた人々の意見がどう変化したかを、(4) のラジオなしを基準として比較した。調査人数はのべ1200人である。その結果は次の2点に要約される。

(一) 政権批判あるいは政権擁護ばかり流した時は人々の意見に変化は無かった。(二) 批判と擁護両方を流した時には人々の意見は穏健化した。ここで、政権批判と政権擁護を両方流した場合に穏健化したことに注意しよう。元々政権批判的だった人は擁護論を聞いて少しは政権も良いことをしているかもしれないと思え、元々政権擁護的だった人は批判論を聞いて政権に問題があることに気づいて批判論調にめざめたことになる。

ここで重要なのは批判と擁護の両方を流した時だけ変化が生じていることである。もし自分と反対の意見を聞くだけで影響を受けるなら、政権批判ばかり流した時、あるいは政権擁護ばかり流した時にも影響が出るはずである。しかし、そうはなっていない。このことの解釈はいろいろできるが、一つの解釈は「一方的な情報には人々は心理的に反発するという解釈である。政権批判のトークばかり聞いていると、「何を夢みたいな」とばかり言っているんだ。現実はいろいろ難しいんだ。でも、できないことを言うんじゃない」といふ反発の気持ちが出てくる。政権擁護のトークばかり聞いていると「いろいろ問題があるのに政権万歳で【ウ】 かよ、ふざけるんじゃない」と思い始める。人間は「一方的な情報には警戒心をいだき、【エ】 とはならない。自分の意見と反対側の意見を並列して比べ、そのうえで自分で考えて納得した時には意見を変える。それゆえにこそ両側の意見を流した時に、意見の変化が起こったと解釈できる。そしてそれは、相手の意見を理解したことによる歩み寄りなのであり、傾向としては穏健化となる。

この理解が正しいのなら、ソーシャルメディアでのクロス接触率4割というのは、まさに穏健化のツルクシン要因になったことになる。分極化はありそうもない。別の言い方をすると人々には思っている以上に賢かったということである。ネットでは情報の取得コストが非常に低く、自分の好きなように情報を取捨選択できるといのはそのとおりである。原理的にはネット上で自分に近い情報ばかりを選ぶことは確かにできる。多くの悲観論者はそう予想し、ネット上で人々が自分だけの偏った情報の中に閉じこもることを【オ】 した。

しかし、人々はそうはしなかった。接する論者の4割が自分と反対側の論者という事実がそれを物語っている。民主主義が安定して機能するためには自分と反対の意見を知る必要があるが、ネットユザはそれに「見事に」応えていたことになる。(中略)

もともとネットでは自分と反対側の意見も接している、すなわち多様な意見に接しているなら、そしてその結果相手も理解し、極端な意見に走ることもないなら、これはネット草創期の人々が掲げた理想に近いことに注意しよう。ネット草創期の人々は、ネットの上で多様な意見や智慧の交流が起こり、互いの理解が進むことを期待した。その期待は、まさに若年層を中心として実現しつつある。時間の経過とともに若年層が社会の大勢を占めていくのであるから、長期的にはネットの良い面が広がっていくことになる。ネット草創期の人々の期待はまだ死んでいない。(田中辰雄・浜屋敏「ネットは社会を分断しない」による)

注1 選択的接触 II 人が情報に接する時、すでに持っている自分の考えに合う情報を選ぶこと。
注2 接する論者のうち反対意見が4割にも達した II 掲出の文章の前に、自と同じまたは異なる政治傾向の論者の発言にソーシャルメディアを通して触れているかをアンケート調査した結果、全体の4割が異なる政治傾向の論者の発言にも接しているという数値が提示されている。
注3 炎上事件 II 不祥事の発覚や大言、讒弁などと判断されたことをきっかけに、インターネット上において、非難・批判が殺到して、取捨が付かなくなる事態や状況が起こること。
注4 サイバカスケード II インターネット上の世論形成における現象の一つ。特定のサイトや掲示板などでの意見交換ではある事柄への賛否いずれかの論が急激に多数を占め、先鋭化する傾向をもつというものである。

注5 エコーチェンバー＝エコーチェンバー現象の略。価値観の似た者同士で交流し、共感し合うことにより、特定の意見や思想が増幅されて影響力をもつ現象。
注6 ネットが社会を分断する＝ネットでの議論が両極端になりがちで、社会において相互理解が見られないままにクルーブに分かれて悪影響を及ぼすことを意味する。
注7 分極化＝政治的意見が二つに分かれてくる現象。
注8 クロス接触率＝ここでは、接している論客の中で自分と異なる政治傾向の論客が占める割合を意味する。

問一 線部A～Dの漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。
解答番号は 1 4。

A コウドク

- ① 良好な関係をコウチクしてきた。
- ② 医療費のコウジョを申請する。
- ③ 商品のコウバイソウを調査する。
- ④ 条約のタイコウを定める。
- ⑤ 両者のキンコウが崩れてしまった。

B コチャウ

- ① 三年のキンコケイに処せられる。
- ② 自らの財力を他人にコジする。
- ③ 報奨を与えることで士気をコブする。
- ④ 寮生に朝のテンコを取る。
- ⑤ 著名人のカイコクを読む。

C ジッショウ

- ① メンキノショウのコビーを提出する。
- ② 公害問題のソショウを起こす。
- ③ 会社の実権をショウアクする。
- ④ 文章の首尾がショウオウしている。
- ⑤ 鳩は平和のショウウチョウである。

D ソクシン

- ① ヘンソク的な動きに翻弄される。
- ② 旧友のその後のショウソクを尋ねる。
- ③ チームのケツソク力が問われる。
- ④ 野菜をソクセイ栽培する。
- ⑤ ソクセキとは思えない出来の料理だ。

問二 線部甲・乙の読み方として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。

- 解答番号は、甲が 5、乙が 6。
- 甲 懸念 (1) かくなん (2) けねん (3) げねん (4) けいねん (5) かねん
乙 若年 (1) にやんどし (2) にやうねん (3) じゃくねん (4) わがどし (5) わごうどし

問三 線部a「ランダム」、b「悲観論者」、c「草創期」の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は、aが 7、bが 8、cが 9。

a 「ランダム」

- ① 大上段
- ② 等間隔
- ③ 意図的
- ④ 不定期
- ⑤ 無作為

b 「悲観論者」

- ① 第三者の立場でものを見たり考えたりしようとする人
- ② ものこの評価や将来の予測がマイナスの方向に偏っている人
- ③ 自分ひとりの立場や見方だけに基づいてもものごとを考えたりする人
- ④ 全体を見渡してものこの有様や成り行きを判断しようとする人
- ⑤ 何かにつけてものこのことに対して意地悪な見方をする傾向のある人

c 「草創期」

- ① 困難に直面した時期
- ② 様々に模索した時期
- ③ 成熟していない時期
- ④ 秩序の整わない時期
- ⑤ 物事が始まった時期

問四 a e に入る最も適当な言葉を、次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。同じ記号は一度しか選べません。解答番号は、
12、
13、
14。

① あたかも ② が いわば ③ さらに ④ たとえば ⑤ やはり

問五 ア オ に入る最も適当な言葉を、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は、
ア (1) 偏屈 (2) 空論 (3) 単純 (4) 聡明 (5) 声高
イ (1) 影響 (2) 総意 (3) 過失 (4) 疎外 (5) 偏見
ウ (1) 画竜点睛 (2) 一刀両断 (3) 贅言論 (4) 自画自賛 (5) 一意専心
エ (1) さつさつ (2) ひんびん (3) やすやす (4) るいるい (5) ちゃくちゃく
オ (1) 達観 (2) 危惧 (3) 自覚 (4) 視認 (5) 析出

入試概要
総合型選抜
公募型学校推薦選抜
英 語
数 学
学 科
生 活
物 理
化 学
学 科
国 語
一般選抜
一般選抜英語
一般選抜日本史
一般選抜世界史
一般選抜生物
一般選抜化学
一般選抜数学
一般選抜国語
音楽実技

問六 次の [] 内の文が入る最も適当な箇所は、問題文中の [一] ～ [五] のどこですか。次の ①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 20。

クリックひとつで反対意見の人をフォローし、その意見を聞くことができるからで、これはマスメディアには無かった特徴である。

[一] [二] [三] [四] [五]

問七 線部1「第一」の理由は、マスメディアと比較する際、コストの面を無視していたことである」とありますが、それについて説明した文章として最も適当なものを、次の ①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 21。

① マスメディアによって情報を取得しようとする人は、効果的に情報を得るためには追加の費用が掛かったり時間を取られたりすることを厭わない傾向があった。一方、ネットでは情報取得に費用や時間を掛けずに済むためその方が効果的なのに、自分に合う旧来の方法で情報を得ることにこだわった人もいた側面に気づいていなかったということ。

② マスメディアで自分と異なる意見に触れ情報を取得しようとする、追加の費用が掛かったり時間を取られたりすることは否めない。一方、ネットだと情報取得に費用や時間を掛けずに済むため、反対意見が簡単に得ることができると、結果として自分に合うものに限らず幅広い情報に触れられ取捨選択できる側面に気づいていなかったということ。

③ マスメディアは良質な情報を提供しているが、多様な情報を取得するためには追加の費用が掛かったり時間を取られたりせざるを得ない。一方、ネットだと情報取得に費用や時間を掛けずに済む利点があるため、たとえ得られる情報の質が劣るにしてもそれに頼る人が社会の多数派となっていた側面に気づいていなかったということ。

④ マスメディアから情報を取得するには費用も時間もかかるので、自分と同じ意見を集めるためには考え方が近い媒体を探し求めなくてはならず、情報源が限定的にならざるを得ない。一方、ネットだと情報取得に費用や時間を割く必要がないため、多様な情報の中から自分に合うものを取捨選択できる側面に気づいていなかったということ。

⑤ マスメディアを主な情報源とする人は、自分と異なる意見に触れるために費用や時間が掛かることを非効率的だと避ける傾向があった。一方、ネットから情報を取得すると費用や時間の面では効率が良かったため、より多様な情報を求めて情報源をマスメディアからネットへ移行させる人が増えた側面に気づいていなかったということ。

問八 線部2「政権批判と政権擁護を両方流した場合に穏健化した」とありますが、その理由を説明した文章として最も適当なものを、次の ①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 22。

① 自身と同じ意見だけを聞き続けることは、偏った情報のみから判断することになり自身の成長を阻害するものであるが、対立する意見とともに聞くことによって幅広い知見を身に付けられ、物事を大局的に判断できるようになる。これは人格面での成長ともいえ、考え方が穏健になることへと結びつくから。

② 自身の意見を一方的に聞かされるだけでは、それに対する否定的な感情が生じて簡単に受け入れられないが、両方の意見を聞くことで両者を比べ、さらに自身で考えて理解し受け入れられた場合に意見を変化させる。これは相手と折り合う地点を探る試みであり、考え方が穏健になることへと結びつくから。

③ 自身とは逆の意見を聞かされることは精神的な苦痛を伴い、受け入れたいという感情をより増幅させてしまうが、両方の意見を聞くことができると思痛は軽減され、逆の意見にも耳を傾けようと思度を変化させられる。これは他者を容認しようとする姿勢を形成し、考え方が穏健になることへと結びつくから。

④ 自身と同じ意見でも逆の意見でもそれだけを聞かされ続けると、そのこと自体にある種の意図や計略が潜んでいるのではないかという警戒心を抱くようになるが、両方の意見をもに聞かされることでそうした疑いは晴れる。これは攻撃的な態度を和らげることになり、考え方が穏健になることへと結びつくから。

⑤ 自身と同じ意見でも逆の意見でも過激な発言を聞き続けることは、心情的な疲弊を招き言動にも悪影響が出る傾向があるが、穏やかな論調の意見には自然と耳を傾けられ、それを受け入れ理解するための土壌を培うことができる。これは他人に対する柔軟性を養い、考え方が穏健になることへと結びつくから。

問九 線部3「人々は思っているほど賢かったということである」とありますが、それについて説明した文として最も適当なものを、次の ①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 23。

① ネットは、マスメディアよりも情報を得るコストが掛からないためそれだけを利用する人が大勢を占めると予想されていたが、意外なことに人々は、双方の利点を理解した上で利用し、片方に偏らない賢明さを持っていたということ。

② ネットは、多様な情報を得られる媒体なので反対意見に接する機会が増えたと予想されていたが、意外なことに人々は、ネットの情報から自身に合う意見を手にとり取捨選択して、持論を左右されたい賢明さを持っていたということ。

③ ネットは、コストが掛かからないため情報を得やすく情報に振り回されたと予想されていたが、意外なことに人々は、ネットの情報から自身に有益なものを取捨選択し、悪影響を与えられない賢明さを持っていたということ。

④ ネットは、情報を得やすいだけに好ましい情報を取捨選択することが困難になると予想されていたが、意外なことに人々は、ネットの情報から過激な意見を区別して排除し、穏健な言動を取り続ける賢明さを持っていたということ。

⑤ ネットは、自身にとって好ましい意見ばかりに情報の取捨選択を偏らせると予想されていたが、意外なことに人々は、ネットで反対意見にも接してそれを受け入れて理解し、行き過ぎた言動に陥らない賢明さを持っていたということ。

入試概要
総合型選抜
公募型学校推薦選抜
英 語
数 学
生 物
物 理
化 学
国 語
一般選抜
一般選抜英語
一般選抜日本史
一般選抜世界史
一般選抜生物
一般選抜化学
一般選抜数学
一般選抜国語
音楽実技

二 次の文章は、遠く離れた須磨・明石の地から都に戻った光源氏が、以前から思いを寄せていた朝顔の姫君のもとを久しぶりを訪れ、まず姫君の叔母である女五の宮に対面する場面です。読んで、後の問いに答えなさい。

長目になりて、桃園の宮に渡りたまひぬるを聞きて、女五の宮のそこにおはすれば、そなたの御とぶらひにことつけてまうでたまふ。故院のこの御子たちをば心ごとく思ひこえたまへりしかば、いまも親しく、次々に聞こえかはしたまふめり。同じ寝殿の西東にぞ住みたまひける。ほどもなく荒れにける心地して、あはれにけはひしめやかなり。宮、対面したまひて、御物語聞こえたまふ。いと古めきたる御けはひ、しはぶきがちにおはす。このかみにおはすれど、故院の宮は、あらまほしく古りがたき御ありさまなるを、もて離れ、声ふつつかにこちこちしくおほえたまへるも、さるかたなり。

①「院の上いんのかみに上ありて、ち、よつづ心ほそくおほえはべりつるに、年の積もるままた、いと涙がらにて過くしはべるを、この宮 甲 かくうち捨てたまへれば、いよいよあるかなきかにとりまはべるを、かく立ち寄り問はせたまふになむ、もの忘れしめべくはべる。」と聞こえたまふ。

乙 聞こえうけたまはらぬを、いぶせく思ひたまへたりつなむ」

「いともしもあさましく、いつかたにつけても定めなき世を、同じさまにて見たまへ過くす。命長さのうらめしきこと多くはべれど、かくて世に立ち返りたまへる御よろこびになむ、ありし年ごろを見だてまつりさしてましかば、くちをしからまし、とおほえはべり」

と、うちわななきたまひて

「いとよらにねびまさりたまひにけるかな。童にもしたまへりしを見だてまつりせめし時、世にかかる光の出でおはしたること驚かれはべりしを、時々見たてまつることに、めゆしくおほえはべりてなむ。内うちの上なむいとよく似たてまつせたまへり、と人々聞こゆるを、さりとらも劣りたまへらむとこそ推し量りはべれ」

③「山がつかになりて、いたう思ひくづはれはべりし年ごろのち、こよなく衰へてはべるものを、内の御かたちはいにしへの世にも並ぶ人なくとこそ、ありがたく見だてまつりはべれ。あやしき御推し量りになむ」と聞こえたまふ。

「時々見たてまつらば、いともしも命や延びはべらむ。今日は老いも忘れ、憂き世の嘆きみな去りぬる心地なむ」とも、また泣いたまふ。

④「三の宮みやうつらやましく、さるべき御ゆかり添ひて、親しく見たてまつりたまふを、うらやみはべる。この亡なせたまひぬるも、さやうにこそ悔なひたまふ折々ありしか」とのたまふにぞ、すこし耳とまりたまふ。

〔源氏物語〕による

注1 桃園の宮 朝顔の姫君の父、故式部卿の宮の邸宅。
 注2 故院 光源氏の父、故桐壺院。「院」の「上」も同じ。
 注3 故大殿の宮 女五の宮の姉、桐壺院の妹。光源氏には叔母であるとともに、妻妾の上の母。「三の宮」も同じ。
 注4 さるかなたり姉と妹でもそのように異なつたふうなのである。

注5 内の上 冷泉帝。
 注6 さるべき御ゆかり添ひて 光源氏を娘婿に迎えたこと。
 注7 この亡せたまひぬる 故式部卿の宮。

問 線部 a 1 の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑥の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は 24 ～ 29。

a 「ことつけて」

- ① 言いわけにして
- ② お礼を兼ねて
- ③ こだわって
- ④ 進物を持って
- ⑤ 伝言を携えて

b 「ほどもなく」

- ① 時間もなくなつて
- ② 敷地も意外に狭く
- ③ すぐ目の前なのに
- ④ たちまちのうちに
- ⑤ 身分と釣り合わず

c 「このかみ」

- ① 姉
- ② 妹
- ③ 母
- ④ 娘
- ⑤ 姪

d 「あらまほしく」

- ① ありえないほど
- ② 恐ろしいぐらいに
- ③ 好ましい様子で
- ④ 願っていた通りに
- ⑤ 不似合いなほど

e 「いぶせく」

- ① うつとうしく
- ② 気がかりに
- ③ 残念に
- ④ 待ち遠しく
- ⑤ もったいなく

- f 「あやぎ」
- 29
- ① 思い込みの過ぎた
 - ② 品性に欠けた
 - ③ 信用できない
 - ④ 承服しかねる
 - ⑤ 事情をわきまえない

問二 ――線部A、Fについて、Fに」と文法的に同じものは、A～Eの中どれですか。次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は**30**。

- ① A「なる」 ② B「に」 ③ C「ぬ」 ④ D「に」 ⑤ E「に」

問三 〃〃線部i、viは誰に対する敬意を表していますか。最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。(同じ記号を何度選んでもかまいません)。解答番号はiが**31**、iiが**32**、iiiが**33**、ivが**34**、vが**35**、viが**36**。

- ① 光源氏 ② 朝顔の姫君 ③ 女五の宮 ④ 故院 ⑤ 故式部卿の宮 ⑥ 故大殿の宮
- ① さへ ② だに ③ のみ ④ ばかり ⑤ より

問四 甲が**37**、乙が**38**。

問五 ――線部ア「かく立ち寄り問はせたまふになむ、もの忘れしぬべくはべる」、イ「おほやけに数まへられたまつりては、「カ」とにかくさし向かひて人のほめぬわざかな」の現代語訳として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号はアが**39**、イが**40**、カが**41**。

- ア 「かく立ち寄り問はせたまふになむ、もの忘れしぬべくはべる」
- ① こうして光源氏が久しぶりに来てくださったのも、年老いて昔のことを思い出せないのをごいませす
 - ② こうして光源氏が見舞いに来てくださったので、現在のつらい境遇を忘れてしまいたいのでございませす
 - ③ こうして光源氏がいろいろと昔のことを尋ねてくださったので、物忘れすることもなくなりませす
 - ④ こうして光源氏が今の生活状態を気に掛けてくださったので、貧しく孤独な日々を忘れられませす
 - ⑤ こうして光源氏が忘れずにいてくださったのも、他はだれひとり私を覚えていないに違いありません
- イ 「おほやけに数まへられたまつりては」
- ① 公式の場において、犯した罪が許されて以後は
 - ② 国家のために、数年間お仕え申し上げて
 - ③ 朝廷から、一人前の人間として扱っていただいで
 - ④ 天皇に、数多くの仕事を与えていただいた
 - ⑤ 役人として復職し、数々の仕事に奉仕してからは

- カ「とにかくさし向かひて人のほめぬわざかな」
- ① ことさらにこういうふう指名指しては人をほめないものだ
 - ② こんな対面の場で長話するのはほめられたものではないよ
 - ③ このように本人を目の前にするといはめてしまうものだよ
 - ④ 容貌について面と向かって話すのはほめられたものでないよ
 - ⑤ わざわざ面と向かってこのように人はほめないものであるよ

問六 ――線部ウ「同じさまにて見たまへ過ぐす」とはどういうことですか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は**42**。

- ① 女五の宮が、桐壺院の死去と光源氏の流離という二つの事件を、世の無常という同じ観点から、諦めの境地で見ていること。
- ② 女五の宮が、桐壺院の死去と光源氏の流離を、世の無常で避けられないこととは言え、深く悲しみながら暮らして来たこと。
- ③ 女五の宮が、桐壺院の死去に驚くばかりで世の無常に気づかず、生き方を变えることもなく、ぼんやりと過して来たこと。
- ④ 女五の宮が、自身は何一つ変わらぬ不遇のまま、桐壺院の死去と光源氏の流離を、どうすることも出来ず傍観して来たこと。
- ⑤ 女五の宮が、長い人生で多くのことを見て来たのに、桐壺院の死去と光源氏の流離を、一連の事件として見誤って来たこと。

問七 ――線部エ「ありし年ごろ」とはどのような時を指していますか。問題文の中の……線部①～⑤のうち同じ時を指しているものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は**43**。

- ① 院の上隠れたまひてのち
- ② 童にもものしたまへりしを見たまつりそめし時
- ③ 山がつになりて、いたう思ひくづはればりし年ごろ
- ④ いにしへの世
- ⑤ さやうにこそ悔ひたまふ折々

問八 ――線部オ「ゆゆしくおほえはりてなむ」とありますが、どういうことですか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は**44**。

- ① 女五の宮が、光源氏が天皇と顔がよく似ているので、まれに見る宿運の持ち主だと恐れ敬ったこと。
- ② 女五の宮が、光源氏が天皇をしのぐ容貌だったため、凶事が起こりそうで縁起が悪いと思ったこと。
- ③ 光源氏が、幼いころから傑出して、この世のものとは思えないほどの不吉さを感じさせたこと。
- ④ 光源氏が、子ども時代にくらべて格段に美しく成長した姿に、今では対面することが惧まれること。
- ⑤ 光源氏が、幼少期の光源氏の姿が秀逸だったので、大人になった時の変化が忌みはばかれたこと。